

2 第二次天津事件

押啓陳者本月十六日付貴公函字第一六九六号ヲ以テ御回示

ノ趣敬承貴主席カ本月十四日付本總領事申入ニ対シ早速交換公文ノ精神ヲ尊重シ駐津貴國軍隊ヲ直ニ他地ニ調動スル

コトヲ快諾セラレタルコトハ貴主席カ常ニ貴我両国国交ノ

敦厚ヲ顧念セラルニ拠ルモノニシテ本總領事ノ衷心ヨリ

感佩スル所ニ有之候然ル處右ハ全然了解ニ苦シムル所ナルノミ

ナラス濫リニ我方ヲ誣ユルモノナル次第付三御更正相

成度尚此種誤会ニ就テハ曩ニ天津市長ヨリモ同様申出アリ

タルニ対シ便衣隊カ敵國租界ヨリ進出シタル事実ナキ旨反駁致置候間貴主席ニ於テモ何等誤会無之様致度右照復得貴意候

昭和六年十一月十八日 在天津

日本總領事 桑 島 主 計
河北省主席 王 樹 常 殿 敬 具

支ヨリ上海へ転報アリタシ

支、南京、北平、奉天、濟南、青島、漢口、廣東、仏ヘ転電セリ

157 昭和6年11月27日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

天津事件拡大防止のための措置に關し意見具申について

天津 11月27日前發

本省 11月27日前着

第六〇二号（暗、至急）
往電第六〇一號ニ闕シ

事件ハ純然タル日支ノ衝突ト化シタル感アルヲ以テ引続キ

支那側ニ発砲中止ヲ要求スルト共ニ軍部ニ対シ租界保持居

留民保護ノ範囲ヲ出テサル様自重方累次勧告シ幹部ニ於テ

ハ之ヲ諒解シ居ルモ歩兵隊前線ノ応射ヲ差止ムル力無ク我

方モ時ニ歩兵砲ヲ以テ応射シ居ルカ如ク此勢ニテ進メハ事

態ハ遂ニ收拾スヘカラサルニ至ルコト明カナルカ本官ニ於

テ遺憾乍ラ此上軍ノ活動ヲ制止スル力無シ依テ此際至急嚴

重自重方中央ヨリ御訓令相成ルコトト致度シ尚居留民ハ既

156 昭和6年11月27日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

天津における日中両軍衝突事件再發について
天津 11月27日前發

本省 11月27日前着

第六〇一號（暗、至急）
往電第六〇〇号ニ闕シ

軍ノ情報ニ依レハ

支那側ハ南開方面ヨリ歩兵銃ヲ以テ我方ニ発砲セシ為我方モ中原公司樓上及大和公園ヨリ歩兵銃ヲ以テ応射シタル由ニシテ（省政府付近ニ二発砲弾落下シタル由支那側ノ申出アリ）六時半頃ニハ事態極メテ重大トナリシカ當方ノ矢繼

早ノ抗議ニ依リ先ツ海光寺方面ハ比較的平静トナリタリ然ルニ次テ東南城廓方面ノ銃声甚タシクナリ之亦當館ニテ抗

議ト共ニ引続キ歩兵隊ノ自重ヲ求メタル結果十時半過ニハ

全線ニ亘リ小康ヲ得ルニ至レルカ各方面トモ小銃機関銃声

止ムニ至ラス（十一時）

電ノ通殆ト復帰シタルカ目下夜中ニシテ避難モ困難ニ付夜明ヲ待テ出来得ル限り安全地帯ニ避難セシムルモ日本租界ノ安全ハ保シ難キヲ以テ結局ハ内地大連等ニ引揚シムル外ナカルヘシ大至急船舶ノ御手配アリタシ尚此際内地若ハ関東軍ヨリ応援隊派遣ヲ得度ク右ハ支那側ノ我方ニ対スル積極的發動ヲ防止シ我租界ヲ保持スル上ニ於テ肝要ト認ムルニ付國際關係ヲ考慮セラルルコトハ勿論ナルヘキモ此際至急御手配ヲ請フ次第ナリ

支ヨリ上海へ転報アリタシ

支、南京、北平、奉天、濟南、青島、漢口、廣東、仏ヘ転電セリ

158 昭和6年11月27日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

衝突再發後の天津軍司令官の宣言について

天津 11月27日前發

本省 11月27日前着

第六〇三号（暗、至急）

力ヲ撤収シ義勇隊ヲ解散シタルカ二十六日夜八時二十分以降支那側ヨリ砲兵軽重機関銃ヲ以テ猛射セラレタルニ依リ

先ツ支那側ノ射撃ノ中止ヲ警告セルモ聽カサルニ付其背信暴戾ヲ忍フヲ得ス已ムヲ得ス租界及居留民保護ノ為自衛權ヲ行使シ支那側ヲ膺懲スル」旨宣言ヲ発シ二十七日零時半ニハ再召集セル義勇隊ニ対シ「軍ノ第一線各部隊ハ陣地ヲ占領シ對戦中ナリ各部隊ハ直ニ戰闘ヲ開始スヘキ」旨命令ヲ發セリ

我方砲撃ノ中止ニ付テハ軍モ了解済又越界出動ニ付テハ幹部ニ於テ承知シ居ルニ付抑止シ得ル見込

学（銘）ニ対シテハ目下館員ヲ派シ支那側ノ射撃中止方交渉セシメ居リ銃声ハ稍緩漫トナレリ（二十七日前一時）支ヨリ上海へ転報アリタシ

支、南京、北平、奉天、濟南、青島、漢口、廣東、仏へ転電セリ

159 昭和6年11月27日 在天津桑島總領事より
整原外務大臣宛（電報）

天津事件拡大不可避のため婦女子引揚増援隊
派遣要請について

第六〇四号（暗、至急）
〔五七文書〕
往電第六〇二号ニ関シ

〔一〕司令官ハ嘗テ本官ニ対シ万一人の場合ニハ婦女子ヲ兵營ニ集メ男子ハ總テ武装セシムル覺悟ナル旨語リシ事アリ本日ノ衝突中本官ヨリ婦女子ヲ當租界外ニ避難セシメタキ旨電話セル處再考ヲ請ヘル点ヨリ見テ相当固キ決心ヲ以テ日支衝突ニ直面セントスルカ如ク此上本官ニ於テ自重ヲ促スモ見込ナシ

〔二〕支那側ハ便衣隊掃蕩ノ為ト称スルモ射撃發生後現地ニ最近キ二区六署巡警局ニ事情問合セタル處何等知ル所ナク最近蔣介石ノ北上張學良ノ壳国奴呼ハリ等ニテ一般ノ人氣悪化シ居リシニ顧ミ最高幹部ハ兎ニ角トシテ二十六日我義勇隊解体ヲ機トシ支那側前線保安隊カ不羈ノ行動ニ

出テタリトモ認メラレ本日ノ衝突ハ仮令解決スルモ形勢ハ日ニ険惡トナル見込ナリ

〔三〕軍部ニ於テ懸念スル處ハ之ヲ機会トシ正規軍カ我方ニ対シ敵對行為ヲ取ル事ニシテ王樹常ニ対シテハ二十支里内

進出防止ヲ引続キ要求中ナルカ我方ノ決心従テ反撃カ大ナレハ大ナル丈正規軍同士ノ衝突ハ免レサルヘシ

〔四〕右様ノ事情ニテ本官ノ微力終ニ事態當方面ニ拡大ヲ防止シ得サルハ殘念至極ナルカ事茲ニ至ル以上政府ニ於テ我軍ノ活動ヲ絶対制止セラルニアラサル限り少クトモ婦女子ニ対シ引揚ヲ命スル外ナシト思料セラル

〔五〕尚衝突已ムヲ得ストセハ現勢力ヲ以テハ到底租界ヲ保持スルヲ得ステハ多年ノ地盤モ失ハル次第ニ付此際大至急増援隊ヲ派遣セラルル事絶対必要ト存セラル

二時銃声尚熄マヌ我方ハ時ニ迫撃砲ヲ發射シ居レリ

支ヨリ上海へ転報アリタシ

南京、北平、奉天、支、濟南、青島、漢口、廣東、仏へ転電セリ

160 昭和6年11月27日 在天津桑島總領事より
整原外務大臣宛（電報）

天津軍の積極的行動阻止のための方針決定方
稟申について

天津 11月27日前發
本省 11月27日前着
11月27日前着

第六〇五号（暗、大至急、部外絶対極秘）
二十六日夜發砲開始以来北旭街物見台ニ在リシ警察官ノ報告ニ依レハ支那側ノ發砲ハ我方ノ如ク急激大袈裟ナルモノニ非サル由（日本ハ司令部前ヨリ重砲ヲ發シ窓硝子全部ヲ破壊セル由）ニシテ支那側カ便衣隊出現ニ關スル情報ヲ予メ通告セス又十時半ヲ期シ我方ニ対スル發射禁止ヲ約シ乍ラ現在尚之ヲ止メ得サル等不誠意ノ次第ハアルモ其射撃ハ軍ノ報告程激烈ナラサルカ如ク當方ノ要求ニ依リ市政府カ保安隊巡警ノ射撃ヲ禁シ飽迄隱忍スヘシト称シ又省政府カ依然二十支里撤退ヲ守リ一兵ト雖モ右区域内ニ局限シ居ル点ヨリ見テ全然支那側ニ誠意無シトルハ余リニ酷ナルヘク一方衝突後歩兵隊長參謀長及義勇隊幹部等カ相次テ日支正規兵間ノ開戦避ケ得サルヲ以テ至急増兵ノ件中央ニ電報証明セラルルカ如ク支那側カ何時敵対行為ヲ執ルヤ計リ難ク現兵力ヲ以テハ不足ナルニ付臨機増派ヲ得タキ旨」主張スル為便衣隊ノ發砲ヲ好機トシ行動セルモノト思考セラレ此際中央ヨリ之ヲ許可スル指示アラハ軍ハ直ニ落付クニ非スヤト認メラル素ヨリ増兵後ニ於ケル軍ノ積極的活動ハ

翻テ事態次第ニ悪化セハ自然居留民ノ引揚ヲ余儀ナクセラ

レ天津ニ於ケル我地盤ハ全ク壊滅シ尚支那側トシテモハ

多少トモ積極ニ転ジ租界ノ保持困難ナル場合モ生スヘク就

テハ冒頭往電ノ事情等御斟酌ノ上此際至急増兵計画相成リ

当面ノ危機ヲ緩和相成様致度シ関東軍カ愈々錦州攻撃ヲ開

始スル旨ノ情報モアリ重ネテ御考慮ヲ仰ク（正午）

在支公使、北支、奉天へ転電セリ

165 昭和6年11月27日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

天津軍の重砲発射および強硬態度について

天津 11月27日後発
本省 11月27日後着

第六一二号（暗、至急）

往電第六〇五号司令部ノ窓硝子破壊ハ虚報ナルカ十二「ミリ」砲ハ四、五弾発射シタル由ニテ内二発ハ省政府背後ノ第二軍司令部ニ落シ尚公安局電話局ニモ我方ノ砲弾ニ依リ多少ノ被害アリシ由又往電第六一〇号負傷者ヲ弔フ為改メテ砲撃ナス意見アリ本官ヨリ極力再考方ヲ懇談シ居ルモ果シテ阻止（シ）得ルヤ疑アリ右軍部ノ強硬ナル態度ヲ示

第六一二号（暗、大至急）

天津 11月27日後発
本省 11月27日後着

第六一三号（暗、至急）

塘沽警備中ノ駆逐艦乗員ヨリ編成セル岩下海軍大尉以下九十名ノ陸戦隊ハ香椎司令官ノ区署ヲ受ケ租界保護ニ当ルヘキ命令ヲ受ケ比治山丸ニテ三時塘沽発当地ニ溯江中支、北平、奉天、南京へ転電セリ

168 昭和6年11月27日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

中國街の教会に日本軍の砲弾落下に関し米国

総領事より注意喚起について

天津 11月27日後発
本省 11月27日後着

第六一四号

海光寺兵營北方約五百「メートル」ノ支那街ニ在ル「メソ

ヂスト」教会及学校ノ構内ニ本二十七日朝我方ノ砲弾二箇

落下シ商用支那人二名負傷シタル趣ニテ同所ニハ米国人居

住中ナレハ今後軍ヲシテ注意セシメラレタキ旨米國總領事ヨリ申越アリ

ス事例トシテ御参考迄

支、北平、奉天へ転電セリ

166 昭和6年11月27日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

天津 11月27日後発
本省 11月27日後着

天津居留民婦女子への引揚げ勧告について

天津居留民婦女子への引揚げ勧告について

天津 11月27日後発
本省 11月27日後着

第六一二号（暗、大至急）

支那側ノ發砲猶火マス小銃機関銃声聞エ此儘推移スルニ於テハ夜間事態重大化スル處アリ王樹常トノ交渉ハ午後四時迄延期セラレ結果不明ナルモ往電第六一〇号至急御詮議アリタク老幼婦女子ニ対シ内地又ハ大連ヘ引揚方慇懃シ置キタリ（三時）

天津ヨリ閑東厅へ転電アリ度シ

支、北平、奉天へ転電セリ

167 昭和6年11月27日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

陸戦隊天津租界保護のため塘沽より天津へ溯江中について

右ハ同方面ヨリ保安隊ノ射撃止マサルニ付我方カ已ムヲ得ス応射シタルモノト思ハル處軍部ニ転達ノ上參謀長自ラ總領事ヲ訪問シ遺憾ノ意ヲ表シ尚日支双方ノ射撃ヲ一時中止シ居住米国人ヲ避難セシムルコトトシ解決セリ

尚二十七日白耳義總領事來訪シ我方十二「ミリ」砲弾一箇支那街（省政府付近）ノ発電所（白耳義国籍）付近ニ落チ一時外支人ヲ驚愕セシメタル處将来充分注意セシメラレタキ旨申入レタリ

169 昭和6年11月27日 ※在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

天津事件の真相に関する情報電報方依頼について

天津 11月27日後発
本省 11月28日後着

第六一六号（極秘）

連盟局長発本官宛電報

第一号

二十六日夜ヨリ貴地ニ起レル事件ハ重大化スル虞レアルヤ

二存セラルル處右事件ノ進展如何ハ目下当地ニ於テ開催中ノ連盟理事会ニ機微ナル影響ヲ及ホス次第ナルニ付事件ノ真相等必要ト認メラル情報當方極秘ノ含ミ迄ニ直接御電報ヲ請フ

大臣、支、奉天へ転電アリタシ

天津における日中両軍衝突事件再発につき張

学良副司令に対し射撃中止方申入れについて

第六八二号（至急）

二十六日夜当地歩兵隊ニ達セル情報ニ依レハ同夜八時二十分天津日本兵營ノ西方地区ヨリ支那側発砲ヲ始メ日本側已ムヲ得ス応戦シ九時半頃彼我ノ交戦猛烈ヲ極ムトノコトナリシニ付直ニ湯爾和ヲ經テ副司令部ニ問合セタル處便衣隊發砲ノ結果日本軍盛ニ射撃ヲ始メ數十発ノ大砲ヲ放チタルモ保安隊ハ手榴弾ヲ以テ応シツツアル旨ノ報告ニ接セル為副司令ヨリ射撃ハ絶対ニナサス且事件ヲ拡大セシメサル様

大臣、公使ニ転電セリ

172 昭和6年11月27日 在北平矢野參事官より
幣原外務大臣宛（電報）

天津事件の措置に関する湯爾和との会談について

第六八七号（暗、至急）
(1)〔七〇文書〕
往電第六八二号ニ関シ

二十七日湯爾和学良ノ命ヲ含ミテ來訪シ

一、天津事件成行ニ付尋ネタルニ依リ日本側カ避難中ノ婦女子ヲ帰宅セシメ義勇隊ヲ解散セル直後ニ於テ然モ支那側ハ便衣隊ノ活動ヲ予知セリト云ヒ乍ラ事前ニ日本側ニ通知セス不意ニ射撃ヲ加ヘタル不都合ヲ指摘シ学良ハ射撃停止方昨夜嚴重命セル由ナルモ本日正午ニ至ルモ依然銃声止マス尚本件力學銘ノ帰津当夜起リタルハ或ハ学良トノ間ニ相談ノ結果ナルヤヲ云為スル者スラアリト述ヘタルニ湯ハ学良ニ於テ事態拡大ノ意向無キハ寸分疑フノ余地無ク要ハ直ニ射撃ヲ中止セシムルニアルヲ以テ学良

嚴命済ニ付貴方ヨリモ日本軍ニ対シ射撃停止方御取計ヲ請フト申出タリ

尚天津軍司令官ハ直ニ増兵ノ電請ヲナセル趣ナリ

連盟ヨリ米へ転電アリタシ

天津、公使、南京、奉天、連盟事務局長へ転電セリ

171 昭和6年11月27日 在北平矢野參事官より
幣原外務大臣宛（電報）

第二次天津事件に伴ない張家口領事館の引揚げ方注意について

第六八三号（暗）

本官発張家口宛電報

第六六号

最近錦州方面ノ事態進展ニ連レ平津方面ノ治安維持懸念セラレ居タル處二十六日夜天津ニ於テ支那側再ヒ我租界ヲ射撃シ日支間ニ衝突アリ今尚対峙中北平ハ目下静穏ナルモ絶対安全ナリトハ予断シ難キニ付貴館ノ引揚方ニ關シテハ時期ヲ失セサル様此ノ上共細心ノ御注意肝要ト存ス

ハ或ハ王樹常ヲ派シテ事件ノ急速解決ニ資スル事トナルヤモ知レスト語レリ更ニ湯ヨリ軍司令官ハ王樹常ニ對シ五項ニ亘ル条件（天津発合第四八二号大臣宛第六〇七号？）ヲ提出シ本日正午迄ニ回答ヲ求メラレタルカ右ニ付テハ学良ヨリノ訓令ニ依リ

(一)敵対行為ニ付テハ誠意ヲ以テ射撃ヲ中止セシムル事
(二)二十支里外撤退ニ付テハ條約通り寒行シ居レリ
(三)若シ之ヲ実行スレハ天津ノ大部分ニ保安隊無キ結果トナリ城内其他ノ治安維持不安トナルヘシ
(四)河北省内ニ於テ万一軍隊ノ移動ヲ行フタルモノ右ハ天津事件ト關係ナシ

(五)排日行動ニ付テハ現ニ誠意ヲ以テ取締実行中ナリ

トノ趣旨ノ回答ヲ發セル筈ナルカ本件ニ付テハ若シ日本側カ平津地方ノ治安維持ニ付支那側ト協力ノ意思アラハ余リニ六ヶ敷キ条件ハ成ルヘク差控ヘラレ度キモノナリト云ヘルニ付本官ハ重ネテ昨夜来事件ノ経緯ヲ嚴重指摘シ支那側ノ不誠意ヲ難詰スルト共ニ日本軍ノ行動ニ關シテハ命令系統ヲ異ニシテ本官ニ於テ干渉ノ余地ナキ旨等然ルヘク挨拶シ置ケリ（本項部外極秘）

一、次テ湯ハ予テヨリ学銘カ若年ニシテ難局ニ当ル能力ナキヲ認メ学良ニ注意シタルコトアル旨語レルニ付本官ヨリ軍司令官ト王樹常間ニ一応諒解成立セルニモ拘ラス学銘ハ桑島總領事トノ交渉ニ全然誠意ヲ欠キ面会スラ避ケ居ル如キハ甚タ不都合ナリトテ天津發公使宛電報第五一九号ノ次第ヲ然ルヘク述ヘタルニ湯ハ御話ノ次第ハ直ニ学良ニ転達スヘシト答ヘタリ

公使、奉天、天津、南京ニ転電セリ

173 昭和6年11月27日 在北平矢野參事官より
幣原外務大臣宛（電報）

張學良に天津における中国側の射撃中止および北平の治安維持方申入れについて

北平	11月27日後発
本省	11月28日前着

第六八八号（暗、至急）

二十七日午後七時学良ニ面会シ

一、昨夜（ノ）天津事件ノ経緯ヲ當方情報ニ依リ詳細陳述シテ支那側ノ不都合ヲ詰り副司令カ昨夜射撃中止事態不拡張ヲ嚴令セラレタル由（学良之ヲ首肯セリ）ナルモニ

項ノ如キハ甚タ難シキ問題ナル旨述ヘタルヲ以テ本官ハ湯爾和ニ対スルト同様軍ノ行動ニ対シテハ闇与スル權利無キモ何レニシテモ昨夜ノ如キ不誠意ナル行動アリタル結果租界ノ防備及居留民保護ノ自衛的措置トシテ司令官ヨリ左様要求セルモノト思ハルルト述ヘ置ケリ（此項部外極秘）

四、次テ張ハ錦州方面ニテ日本軍出動ノ説アル処右ハ如何ナル意思ナリヤト頗ル心配氣ノ面持ニテ述ヘタルニ付本官ハ明答ヲ避ケ錦州方面ノ事態ニ顧ミルモ此際平津地方ノ治安ヲ維持スルコト副司令ノ為ニモ絶対ニ肝要ナル旨話ヲ逸ラシ置ケリ（天津發閣下宛電報第五九六号張ニ関外引揚勧告ノ点ニ付テハ大臣發公使宛電報第四七八号ノ關係モアリ本官ヨリ之ニ言及ヲ避ケタリ）

五、桑島總領事及学銘間ノ交渉ニ關シ早速学銘ニ訓令方様ノ注意ヲ喚起セル處張ハ本件ニ關シ早速学銘ニ訓令方取計フヘシト述ヘタリ尚学良ハ前回會見ノ際ニ比シ頗ル憔悴シ居レリ

十七日午後ニ至ルモ射撃止マス此儘ニテ夜ニ入レハ重大ナル事態出来スルヤモ計ラレス甚タ憂慮ニ耐ヘサルカ故ニ今夜ハ射撃セサル様即時嚴命方篤ト申入レタル處学良ハ本日モ唯今迄間断無ク電話ニテ指図シ居レル次第ナルカ御申出ニ依リ更ニ嚴命ノ事トシ貴方ト協力シテ事態ノ拡大ヲ防ク事トスヘシト答ヘ尚天津保安隊ハ大砲ヲ有セサルハ勿論迫撃砲スラ之ヲ取上ケ居リ又砲兵ハ天津付近ニ居ラサル旨述ヘタルヲ以テ本官ハ現ニ日本兵營ノ営場ニ野砲弾炸裂セル事及野砲六門ヲ積メル鐵甲車カ天津總站ヨリ東站ニ移動セル事等ヲ指摘セル處学良ハ右ノ如キ事絶対ニ無キ筈ナルカ更ニ取調フヘク又伊國兵ト支那兵トノ間ニ射撃行ハレタル事ニ付伊國側ニ問合セタル處右様事実無キ事判明セリト云ヘリ

二、次テ本官ヨリ北平ノ治安及居留民保護ニ付申入レタル處右ハ御申入ヲ待ツ迄モ無シ自分ハ問題起ラサルヘシト信スルモ本夕六名ノ便衣隊ヲ捕ヘタル次第モアリ尚此上トモ治安維持ニ努力スル積リナリト言ヘリ

三、学良ヨリ茲ニ御聞キシ度キハ司令官ヨリ王樹常宛五項ノ要求ハ如何ナル趣旨ニ基クモノナリヤ殊ニ第三及第四

174 昭和6年11月27日 在天津桑島總領事宛（電報）

天津へ居留民引揚げのための船舶手配について

北平	11月27日後発
本省	11月27日後発

第一〇三号（暗、至急）

（避難船手配方ニ關スル件
貴電第六〇二号ニ關シ
○五七文書）

急速ニ船舶ノ手配ヲ為スカ為メニハ大連方面ヨリ差向クルヨリ外ナキニ付キ往電第八九号ノ趣旨ニ依リ直接閑東長官ト連絡ヲ取ラレ度ク尚内地方面ヨリノ船舶ニ対シテモ貴官ニ於テ必要ニ忘シ往電第八八号ノ措置ヲ執リ得ル様再応遙信省ト打合済ミナルニ付右ニ依リ適宜御措置アリ度シ閑東長官、北平、青島、芝罘、濟南、在支公使、上海、南京へ転電セリ

天津ニ於テ戒厳令施行ノ件

貴電(二六一文書)第六〇六号ニ閑シ

戒嚴令ハ適法ニ施行シ得ルモノト認ム尚当地軍側ノ觀測ニテハ本件ハ戒嚴令ト云フモ單ニ便衣隊ノ搜查警戒及租界警備ニ必要ナル特別非常警戒措置ニ過キサルニ非スヤトノコトナリ御参考迄

176 昭和6年11月27日

幣原外務大臣より
在天津桑島總領事宛(電報)

天津在留民の保護について

本省 11月27日後發

第一〇七号(暗、至急)

天津在留民ノ保護ニ閑スル件

貴電(五九文書)第六〇四号ニ閑シ

貴地事態ノ推移如何ニ依リ居留民引揚ノ必要ヲ認メラルル場合ニハ貴官ノ裁量ニヨリ適宜引揚又ハ避難セシメラレ差支ナク之力為ニ必要ナル船舶ノ差繰ニ付テハ往電第一〇三号ノ趣旨ニヨリ可然御手配アリタシ右ノ措置ヲ執ラル迄ニ於テモ彼我交戦継続セラレ租界内居留民ノ安全危急ニ瀕スルヤウノ場合ニハ英仏等ノ租界當

局及関係者ト交渉セラレ貴官官邸、各本邦汽船会社建物等可然安全ノ箇處ニ一時取容スル等ノ方法ヲ講シ極力居留民

ノ保護ニ努メラレ度右ハ勿論既ニ御氣付ノコトトハ存スルモ為念

尚引揚居留民ノ數及内訳等ハ引続キ其都度回報アリタシ

支、北平、奉天、南京、濟南、青島、漢口、廣東、関東

府、仏連へ転電セリ
支ヨリ上海へ転報アリタン

177 昭和6年11月27日

幣原外務大臣より
在天津桑島總領事宛(電報)

軍艦八雲天津方面出動について

本省 11月27日後發

第一〇八号(暗、至急)

八雲天津方面出動ノ件

貴電(六四文書)第六一〇号ニ閑シ

駐屯軍増兵ノ件ハ未タ決定ニ至ラサルモ不取敢軍艦八雲ヲ貴地方ニ出動セシムルコトニ本二十七日發令済ニテ同艦ハ遲クモ明朝佐世保ヲ拔錨シ約二昼夜ニテ塘沽沖ニ到着ノ予定ナルカ同艦ヨリハ少クモ約百名ノ陸戰隊ヲ揚陸シ得ル趣

ナリ

支、南京、北平、奉天、濟南、青島、漢口、廣東、仏ヘ

転電セリ

支ヨリ上海ニ転報アリ度

178 昭和6年11月27日

幣原外務大臣より
在北平矢野參事官宛(電報)

張學良に中國軍の天津租界二十支里外への撤

退申入れについて

第一〇七号(暗、大至急)

天津事変

天津発本大臣宛電報(二六四文書)第六一〇号ニ閑シ

中央軍部ニテハ往電合第一七二九号ノ通り錦州方面ノ支那軍隊ヲ平和的ニ閑内ニ入ラシムル案ニ付交渉ヲ進ムルコトニ同意スルト共ニ關東軍ノ同地進撃阻止ニ閑シ出来得ル限リノ手段ヲ尽シ居ル次第ナルカ一方天津発本大臣宛電報第

五六〇号司令官ノ王樹常ニ対スル要求条件カ中央ノ命令ニ依リ大ニ緩和セラレタルハ本大臣発天津宛電報第一〇六号ノ通リナルニ付右御含マ以テ至急張學良ニ面会ノ上天津地方ノ支那軍ニ対シ速ニ發砲ヲ停止シ且二十支里外へ撤退ス

ル様命令方嚴重申入レラレ度

往電合第一七一五号及合第一七二九号各別電ト共ニ天津ヘ転電アリ度

支、奉天、天津ヘ転電セリ

支ヨリ天津ヘ転電アリ度

179 昭和6年11月27日

幣原外務大臣より
塙本關東長官宛(電報)

天津への船舶回航手配依頼について

本省 11月27日後發

第七八号(暗、至急)

避難船手配方ノ件

往電第七四号ニ閑シ

今回在天津總領事ヨリ同地ノ形勢再悪化セルニ付避難船手配方申越セルヲ以テ別電合第一七二〇号ノ通り回電シ置ケリ就テハ同總領事ヨリ申出アリタル場合良シク御配慮ヲ請

フ
天津ヘ転電セリ

180 昭和6年11月28日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

日本側要求に対する王河北省主席の回答要旨

および右に関する軍司令官の声明について

天津 11月28日前發
本省 11月28日前着

第六一八号（暗、至急）

〔六二文書〕
往電第六〇七号ニ関シ

二十七日午後四時王樹常ヨリ司令官宛送付越セル回答文要旨左ノ通り

一、我方ハ便衣隊ヲ防禦スルモノニシテ貴方ニ対シ絶対ニ敵対行為ヲ執ラサルコトハ累次声明セル處ナリ将来相互ニ衝突制止ニ努メ誤解発生ヲ免レタシ

二、我方ハ一九〇二年ノ天津條約交換公文ノ趣旨ヲ尊重シ既ニ領事館ニ答復セルカ如ク從来天津ニアリシ部隊モ二十支里外ニ臨時撤退セリ

三、現ニ便衣隊カ治安ヲ擾乱シ居ル際若シ保安隊ヲ（御）申入レノ如ク撤退セハ其区域内ニ於ケル中外人民ノ生命財産ハ保護ノ方法ナキ次第三付右実行上ノ困難ヲ了解アリタシ

尤モ当地ニ駐屯スル他ノ友邦當局ト連合シテ治安保護ノ有効ナル方法ヲ計リ得ルニ於テハ共同処理ニ一致スヘシ

本省 11月28日前着

第六二一号（暗、至急）

支那側ニ対シ引続キ射擊絶対禁止ヲ要求シタル結果昨夜ハ小康ヲ得タルカ夜八時半、午前二時、四時及七時半頃機関銃及迫撃砲モ交リ平静ヲ破レリ支那側ハ華街外人所有家屋等ニ隠レ之ヲ盾トシ不法射擊ヲ為ス趣ニシテ軍ヨリ各国側ニ対シ進ンテ支那街ヲ射撃セサルモ自衛上已ムヲ得サル場合ニハ或ハ応射スルコトアルヘク危険ナルニ付本日日没前適宜外国人ノ引揚ヲ為サシメラレ度ク其間我方ハ絶対射撃セサル旨通告スル予定（二十八日午前九時）

転電先往電第六〇一号ノ通

182 昭和6年11月28日 在北平矢野參事官より
（電報）
整原外務大臣宛

香椎軍司令官の中国側への要求に関する北平
晨報社説について

北平 11月28日前着
本省 11月29日前着

第六九〇号（平）
二十七日天津軍司令官ノ支那側ニ対スル五項要求ニ付二十

四、天津ヲ去ル二十支里外ノ軍隊ノ移動ハ省政府ノ所轄ニ非サルヲ以テ弁理上困難アリ了解ヲ望ム

五、排日及侮辱行動取締ハ夙ニ實行シ居ルモ今後一層注意スヘシ

右ニ関シ司令官ハ二十七日左ノ声明ヲ為セリ

十一月十五日王樹常カ支那側ノ敵対行為ニ対シ陳謝ノ意ヲ表シ未タ二旬ナラスシテ再ヒ今回ノ如キ衝突事件ヲ惹起セリ我軍ハ累次声明セル如ク支那側ノ挑戦ナキ限り絶対ニ敵対動作ニ出テサルヘキハ勿論ニシテ本二十七日通告ヲ發セルハ真ニ日支両軍ノ不祥事ヲ防止セントスルニ外ナラスルニ支那側ノ回答ハ些ノ誠意ナシ之ニ対スル支那側ノ責任ハ実ニ重大ナルモノト認ム

支ヨリ上海ヘ転報アリタシ
支、北平、南京、奉天、濟南、青島、漢口、廣東、仏、米ヘ転電セリ

181 昭和6年11月28日 在天津桑島總領事より
（電報）
整原外務大臣宛

中国側に対する射撃禁止方要求について

天津 11月28日前發

八日ノ北平晨報社論左ノ通

一、中國軍隊カ何レノ國ニ対シテモ嘗テ敵対行為ニ出テタルコトナキハ世界周知ノ事實ナリ然ルニ日本ハ東三省ハ勿論關内各地ニ於テモ公然中國ニ対シ敵対態度ヲ執リ且屢々城市ヲ砲撃セリ暴徒ノ鎮圧ヲ以テ日本ニ敵対セルモノトナスハ日本カ暴徒ノ後援者タルコトヲ自認セルモノナリ

二、天津ノ周囲ニハ從來軍隊ナク治安維持ハ全部保安警察之ニ当レリ天津接收協定ニハ租界ヨリ二十支里内不駐兵ノ声明アルモ右ハ平時ノ状態ヲ指スモノニテ非常時ニケル中國主權ノ發動ハ當然拘束ヲ受クヘキニアラス今次小部隊ノ暴徒ニ対シテハ固ヨリ軍隊出動ノ要ナシ日本ノ要求ハ何等カ行動ノ予備ニアラサルカ

三、水上警察及武装保安隊ノ撤退要求ハ直ニ天津占領ヲ企図スルニ等シク中國警察カ其領土内ニテ職務ヲ執行スルニ何故撤退ノ要アリヤ殊ニ水上警察ノ撤退ハ何等根拠ナシ

四、河北省内軍ノ移動ニ付テハ何レノ国ト雖干渉スル権利ナク又天津ニ向ヒ移動セサルコトトアルモ範圍極メテ広

ク承認シ難シ

五、反日行為ノ取締ヲ要求スルハ自ラ天津事件カ反日ニ基

因セルコトヲ認ムルモノニテ寧ロ日本側ニ挑戦行為ノ取
締ヲ要求セントス

公使、南京、天津ニ転電セリ

183 昭和6年11月28日

幣原外務大臣より

在天津桑島總領事宛（電報）

天津日本租界の防衛および居留民の保護のた

め閑東軍より一箇大隊増援について

本省 11月28日後発

第一一〇号（暗、至急）

天津事件

貴電第六二二〇号ニ関シ

今後支那側ノ挑戦等ニ因リ事態益々悪化スルニ至ルカ如キ
場合ニ處シ租界ノ防衛及居留民ノ保護上貴地駐屯軍ノ兵力
不足ヲ補フ目的ヲ以テ今回政府ニ於テ閑東軍ヨリ一箇大隊
(約五〇〇名)ヲ増援セシムルコトニ決定シ今明日中ニ發
令ノコトトナルヘク發令ノ上ハ直チニ大連ヨリ貴地ニ輸送
セラルヘシ右増援隊ノ編成及兵力等ニ付テハ貴官限リノ御

含トセラレ新聞通信員其他外部ニハ一切發表セラレサルヤ
ウ致サレ度

公使、北平、奉天、濟南、青島、南京、漢口、廣東、連
盟、歐米各大公使ニ転電セリ

184 昭和6年11月29日

在天津桑島總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

領事団會議における天津事件の討議について

天津 11月29日前着

本省 11月29日前着

第六二九号（暗、至急）

二十八日午後領事団會議開催館員ヲ出席セシメタル處劈頭
往電第六二一号後段軍ノ通告ニ關シ恰モ我方カ日没後支那
街ヲ積極的ニ攻撃占領スル企図アルカ如ク解釈セラレ外支
人間ニ非常ナル動搖ヲ來シ居ルコトヲ發見シタルヲ以テ(ハ
仏國領事ハ事重大ナリトテ公使ニ既ニ電報シ又米國ハ國務
省ニ對シ報告ノ予定ナリシカ當館ニ電話ニテ問合セ事情判
明セル為差控ヘタル旨語レリト)館員ヨリ我方ニ於テ八日
ノ暴動以來何等根本方針ニ変化ナク今後共自衛的応射ノ範
囲ヲ出テナル旨並ニ二十六日以來支那側カ引続キ不法發砲
ノ安定治安ノ恢復策ニ付懇々勧請セシメタル結果王モ本官
ノ好意ヲ感謝シ代表ヲ司令部ニ派シ解決弁法ヲ協議セシム
ルコトトナリ代表トシテ周龍光外一名二十九日幕僚ト會見
ノ筈

転電先往電第六〇一號ノ通り、米ヘ転電セリ

本省 11月29日前着

第六三〇号（暗、至急）

往電第六一八号ニ関シ

ヲ統ケ不届至極ナル旨（我カ租界対岸ノ伊太利ノ領事ハ右
ハ事實ナル由述ヘタリ）説明シ一同之ヲ了解シタルカ次テ
内外人ノ利益ノ為速ニ事態ノ收拾ヲ計ル必要アリトテ種々
討議ノ結果日支双方ニ對シ時間ヲ限り防備撤去ヲ要求スル
案カ出テタルヲ以テ館員ヨリ支那側カ依然射擊ヲ停止セス
誠意見エサル限り右ハ到底不可能ナル旨説明シタル際王樹
常ノ代表來リ日支衝突ヲ避ケル為王ハ自發的ニ保安隊ヲ日
支境界ヨリ引下クル用意アリ完了ノ上ハ外國武官ニ於テ検
査アリタキ趣伝ヘタルヲ以テ領事団トシテハ之ニ満足ヲ表
シ委細ハ王ト我軍司令官ノ交渉ヲ待ツコトトシ閉会トナレ
ル由ナリ

転電先往電第六〇一號ノ通り、米ヘ転電セリ

天津 11月29日前着

185 昭和6年11月29日

在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

王河北省主席の回答を不満とする天津軍司令

官の覺書について

別電 同日桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

天津 11月29日前着

第六三一号（暗、至急）

天津 11月29日前着

天津 11月29日前着

天津 11月29日前着</

二十七日付ノ回答ハ誠意ヲ欠キ甚々不満足ナリ即チ〔一〕貴方

ハ依然トシテ敵対行為ヲ統ケ〔一〕正規軍ヲ完全ニ撤退セヌ又新ニ鉄甲車ヲ東停車場ニ招致シ〔三〕治安維持ニ藉口シ大砲機関銃ヲ有スル武装保安隊ヲ租界付近ニ配置シ挑戦的態度ニ出テシメ四貴軍長ノ隸下ノ軍隊ノ河北省内移動禁止ヲ約束セス又其他ノ軍隊ニ付テモ我方要求ニ対シ適當ノ方法ヲ執ラサルカ如キ是ナリ依テ将来再ヒ日支ノ間ニ不祥事ヲ生シ内外人ニ危害ヲ与フルモ全テ貴方ノ責任ナリトス

186 昭和6年11月29日

在天津桑島總領事より
警原外務大臣宛（電報）

天津英國駐屯軍司令官より緩衝地帯設置の提

案について

付記一

香椎天津軍司令官より南陸相宛天第三八五号

警察機關組織に関する申入れについて

二

武内天津軍參謀長より杉山陸軍次官宛天第三

六六号

國際警察機關設置案に対する意見について

天津 11月29日前發

本省 11月29日前着

六六号

國際警察機關設置案に対する意見について

天津 11月29日前發

本省 11月29日前着

ナラス各国人亦等シク堪へ難キ所ナリ何トか現状打破ノ方

法ナキヤト問ヒシヲ以テ予ハ支那側ノ挑戦的毎日行為ヲ根絶セサル限り策ナシ貴意見如何ト反問セルニ左ノ如ク述ヘタリ

支那側ハ日本ニ対シ挑戦的行動ニ出テ誠ニ度シ難キ国民ナルコトハ明ナルトコロナリ而シテ右情態ヲ打開スル為ニ

ハ日英米仏伊等五個國ヲ以テ國際警察（軍隊ヲ以テセントスル意ナル如シ）ヲ組織シ一時天津ノ治安ヲ保持シテハ如何（過般王樹常ノ回答第三項ニモ本件ヲ暗シアリ）

其ノ具体的方法ニ就テハ別ニ研究スルモ差当リ其ノ可能不可能ノ返事ヲ賜り度

右ハ北平南京及天津ノ支那官憲カ英國公使ニ請ヒタルモノ

ニシテ米仏公使モ之ニ同意シアリト

依ソテ小官ハ右事項ハ軍司令官ノ權限外ナルヲ以テ本國政

府ニ請訓スル旨答フルト共ニ右國際警察機關ノ權限如何ト

反問シタルニ夫レハ自分ハ未タ承知セスト云フ依ソテ更ニ

小官ハ彼ニ若シ右ノ如ク國際警察ヲ配置セル地帯ニ於テ其

ノ中立的性質ヲ利用シ其ノ内部ニ於テ某一國ヲ目標トスル或種ノ運動起リシ場合ハ之ニ対スル処置ヲ如何ニスヘキヤ

第六三二号（暗、至急）

二十八日英國駐屯軍司令官香椎中將ヲ來訪ノ上非公式ノ意見トシテ日支ノ衝突ヲ防止スル為我租界ノ外方ニ緩衝地帯ヲ設ケ日英米仏伊國軍隊ヲ以テ組織スル連合警察ヲ入レ治

安維持ニ當ラシムル案ヲ提示シ右ハ北平及南京支那側ヨリ提議セラレ英米仏公使ニ於テモ主義上異議ナキ處日本側ノ意見承知シタルト付我方ハ不敢本国政府ニ請訓

スヘキ旨回答シタル由尚右ハ英國總領事ノ依頼ニ依リ態ト軍司令官ノ間ノ意見交換ノ形トセシ趣ナルカ尚同總領事ハ

往電第六二九号領事團會議ニ於テ支那側カ相當範囲ニ保安隊ヲ撤退シ之ニ代リ巡警ヲシテ治安ヲ維持セシムヘキ旨語

レル際ニモ何等之ニ言及セサリン由ナリ

支、北平、奉天ニ転電セリ

（付記一）

香椎天津軍司令官ヨリ南陸軍大臣宛

天第三八五号（極秘）

（日英軍司令官ノ会談）

本日午後一時英國軍司令官我軍司令部ニ小官ヲ訪問シ天津目下ノ状態ノ永続スルコトハ啻ニ日支兩國ノ不幸ナルノミ

議者問題ニ關シ左ノ如ク訂正シ来レリ

英米仏公使南京ニ於テ天津事件打開策ニ就キ會議セシカ右方策ヲ夫々在天津英米仏總領事會議ノ結果國際警察案ヲ発

案シ夫々自國公使ニ回答セリ右不取敢

（編注）本電信は発電月日を欠いているが一月二八日と推定される。

（付記二）

武内天津軍參謀長ヨリ杉山陸軍次官宛

天第三六六号

（國際警察機關）

天電第三八五号國際警察機關ニ關シテハ編成配置、權限等具体的ニ探究セサレハ明瞭ニ可否ヲ決定シ得サルモ趣旨ニ

セルコト但シ事態ハ漸次緩和シツツアル由ナリシニ付此儀直ニ湯ニ通報シ置ケリ

支、天津、奉天へ転電セリ

191 昭和6年11月30日

在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

英國の緩衝地帯設置案の実行困難の状況について

いて

天津 11月30日前發
本省 11月30日前着

第六三七号(暗、至急)
(一八六文書)

往電第六三二号ニ閑シ

其後英國司令官ヨリ右ハ南京ニ於テ英米仏公使会合ノ際天津ノ事態ヲ之ノ儘放置スルニ忍ヒサルニ付各所属領事ヲシテ何トカ解決方法ヲ講究セシメタシトノ話出テ当地ニ訓令アリン為三国領事ニ於テ案出シタル私案ナル旨電話ニテ訂正シ来レル由ニシテ英國側ノ態度ニ不審ノ点アルノミナラス实行モ困難ニシテ又我方カ仮令之ニ参加スルモ目下ノ時局ニ際シ各方面ニ相当機微ナル影響アリト認メラルヲ以テ香椎司令官ニ対シテハ慎重講究ヲ要スル旨注意ヲ喚起シ

大臣、支、奉天へ転電セリ

193 昭和6年11月30日

在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

保安隊の撤退に關し張天津市長より照会について

いて

天津 11月30日前發
本省 11月30日前着

第六四一号(暗)

往電第六三六号ニ閑シ

張市長ヨリ二十九日付公文ヲ以テ十一月八日事変發生以来貴我相互ノ間ニ紛糾アリ本市長ハ誤解ヲ避クル為メ自發的ニ保安隊ヲ撤退セシムルコトトシ王首席ヨリ委員ヲ派シ

「貴國軍部ト接洽ノ上本二十九日午後四時ヨリ之ヲ実行スル」旨照会アリ我軍部ニ於テモ全線ニ対シ同時刻ヨリ攻撃停止ヲ命シタルカ只今迄一発ノ銃声モ聞エヌ事變以來嘗テ見サル平靜状態ナリ尚支那側ハ本三十日モ防禦工作ヲ撤去シ居レル處人心未ダ安定ニ至ラス華街及日本租界内支那人ノ外国租界ニ避難スルモノ相当アリ(午後一時)

支、北平、奉天へ転電セリ

置キタルカ往電第六三六号ノ次第モアリ本件ハ先實際上問題トナラサル見込

支、北平、奉天へ転電セリ

192 昭和6年11月30日

在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

第二次天津事件の突発事情について

いて

天津 11月30日前發
本省 11月30日前着

第六三九号(暗、至急)

本官発仮宛電報
第二号

貴電第一号ニ閑シ

二十六日夜來ノ第二次擾乱ハ全然突發事件ニシテ其実情ハ大体在支公使発南京宛電報第七七八号ノ通ナリ支那側ニ於テハ日本人カ再ヒ便衣隊ヲ使嗾セリトカ或ハ関東軍ノ錦州攻略ニ對スル後方擾亂ノ用意ナリトカ兎角ノ惡宣伝アル處何等右様ノカラクリナシ尚我方応酬カ多少程度ヲ過シタルヤノ批難アルモ支那側累次ノ背信並ニ不法行為ニ顧ミ右ハ已ムヲ得サル次第ト認メラル

大臣、支、奉天へ転電セリ

194 昭和6年11月30日

在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

中国人街における便衣隊出現情報と中国側の射撃について

いて

天津 11月30日前發
本省 12月1日前着

第六四四号(至急)

本官発連盟宛電報

第三号

在仏大使発大臣宛電報第三一二三号及連盟発大臣宛電報第三七九号ニ閑シ御参考迄

(一)支那側ハ二十六日夜我兵營付近ノ支那町ニ便衣隊出現リト云フモ當時現場付近支那警察ニ問合セタル所ニ依レハ何等其事實ヲ承知セストノコトナリキ又便衣隊ニ対スル射撃ニ付テハ予テノ了解ニ從ヒ事前我方ニ対シ通告スヘキニ拘ラス其事ナシ

(二)便衣隊ノ出現ハ口実ニシテ保安隊ハ故意ニ我方警備線ニ對シ發砲セルヲ以テ軍ハ已ムヲ得ス應射セルカ二十六日十時半ヲ限り發砲ヲ停止セシムル固キ約束ニ拘ラス先方

ハ更ニ機関銃及迫撃砲ヲ使用シ且兵力ハ支那側ノ五千ニ
対シ我方ハ四百三過キス加フルニ租界及居留民保護ノ重
任ニ在リ而カモ越界掃蕩シ得サル不利ノ立場ニ在リシ我
軍ハ自衛上山砲及十二粍砲ヲ以テ敵ノ本拠タル第二軍司
令部及公安局ヲ砲撃シタリ尚支那側ノ射撃拙劣ニシテ我
兵ノ負傷四名ノ外殆ト被害ナキハ不幸中ノ幸ナリ

(3) 支那側ノ射撃ハ二十六日夜ヨリ二十九日正午ニ至ルモ熄
マス先方ハ飽ク迄便衣隊ノ仕業ナリトシ保安隊ニ対シ射
撃停止命令ノ不徹底ヲ認メサリシニ拘ラス往電第六三六
号二十九日武装保安隊ノ河北撤退以来一発ノ銃声モ聞エ
サルハ明ニ保安隊ノ敵対行為ヲ証明スルモノナリ

四二十八日支那町ノ米国人避難ノ為我方カ絶対的ニ応射ヲ
差控ヘ居ル隙ニ支那カ其付近ニ土囊陣地ヲ構築シ其後之
ニ依リ我兵一名ヲ狙撃シ下脇部ニ貫通銃創ヲ負ハシメタ
ルハ非人道極マル行為ナリ

五我方カ便衣隊ノ掃滅ニ対シ支那側トノ協力ヲ惜マサル意
向アル次第ハ支那側ヨリ出テタル情報トシテ三十日ノ漢
字紙ニ報道セラレタリ

仏ヨリ在欧(各)大使ヘ転電アリタシ

196 昭和6年11月30日 在北平矢野參事官より
幣原外務大臣宛(電報)
天津事件の原因に関する北平晨報等の論説について

北平 11月30日後發
本省 12月1日前着

第六九九号 往電第六九〇号二閑シ

二十九日ノ北平晨報ハ天津事件ノ根本原因ハ中国カ國際的
不平等ノ地位ニ在ルカ為ニシテ外国租界ナクハ便衣隊モ根
拠地ナカルヘク又外国軍隊駐屯セサレハ中国軍警ノ不穩分
子彈压ニ於テ外國軍隊ト衝突スル虞ナキニ付中国ノ建設事
業ヲ完成セントセハ先ツ不平等ノ地位ヲ脱却スルヲ要ス又
今次事件ニ天津地方當局カ隱忍讓歩シテ治安維持ニ努メツ
ツアルニ日本側ハ尚挑戦シツツアル處日本カ東北占領後更
ニ北支援乱ノ挙ニ出テ居ルハ東北占領繼續ノ意図ト論シ又
華北日報ハ王樹常ノ態度ハ甚々軟弱ニシテ殊ニ五項要求ニ
対スル回答中第三項ノ如ク他ノ要求アレハ天津ノ行政権
ノ一部又ハ全部ヲ拠棄セントスルモノニシテ地方官守土ノ
職責ニ違反ス天津事件ニ付テハ便衣隊又ハ暴徒ハ徹底的ニ

ハ更ニ機関銃及迫撃砲ヲ使用シ且兵力ハ支那側ノ五千ニ
対シ我方ハ四百三過キス加フルニ租界及居留民保護ノ重
任ニ在リ而カモ越界掃蕩シ得サル不利ノ立場ニ在リシ我
軍ハ自衛上山砲及十二粍砲ヲ以テ敵ノ本拠タル第二軍司
令部及公安局ヲ砲撃シタリ尚支那側ノ射撃拙劣ニシテ我
兵ノ負傷四名ノ外殆ト被害ナキハ不幸中ノ幸ナリ

(3) 支那側ノ射撃ハ二十六日夜ヨリ二十九日正午ニ至ルモ熄
マス先方ハ飽ク迄便衣隊ノ仕業ナリトシ保安隊ニ対シ射
撃撃停止命令ノ不徹底ヲ認メサリシニ拘ラス往電第六三六
号二十九日武装保安隊ノ河北撤退以来一発ノ銃声モ聞エ
サルハ明ニ保安隊ノ敵対行為ヲ証明スルモノナリ

四二十八日支那町ノ米国人避難ノ為我方カ絶対的ニ応射ヲ
差控ヘ居ル隙ニ支那カ其付近ニ土囊陣地ヲ構築シ其後之
ニ依リ我兵一名ヲ狙撃シ下脇部ニ貫通銃創ヲ負ハシメタ
ルハ非人道極マル行為ナリ

五我方カ便衣隊ノ掃滅ニ対シ支那側トノ協力ヲ惜マサル意
向アル次第ハ支那側ヨリ出テタル情報トシテ三十日ノ漢
字紙ニ報道セラレタリ

仏ヨリ在欧(各)大使ヘ転電アリタシ

195 昭和6年11月30日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛(電報)
張天津市長の保安隊撤退に関する布告について

天津 11月30日後發
本省 12月1日前着

第六四五号(暗、至急)
(一九三文書)

往電第六四一号ニ閑シ
張市長ハ三十日大要左ノ如キ布告ヲ發セリ
今次便衣隊擾乱以來警察隊ヲシテ極力掃蕩ニ当ラシメシモ
本市ハ華洋雜居セル為旬日ヲ経ルモ其ノ根源ヲ肅清スルヲ
得ス殊ニ開口東南城廓一帯ハ地形錯綜シ便衣隊ノ出没ニ便
ナル場所ナルカ一度処置ヲ誤ランカ國際紛糾ヲ惹起シ内外
商民ハ弾丸雨飛ノ中に置カレ生命財産ノ損害ハ言フニ忍ヒ
ス依テ中外商民ノ國際ノ誤解ヲ避クル為同方面ノ保安隊ヲ
撤退シ巡警ヲ現場ニ回復シ秩序ヲ維持セシム商民ハ謠言ニ
迷ハサレス其ノ業ニ安ンスヘシ云々
公使、北平、奉天ヘ転電セリ

197 昭和6年11月30日 武内天津軍參謀長より
二宮參謀次長宛(電報)
保安隊の撤退状況について

北平 11月30日後發
本省 12月1日前着

天第三九八号(秘)
支那側ノ口頭禪ハ今ニ始リシコトナラサルモ二十九日正午
前後支那側代表我司令部ヲ訪問シ武装保安隊ノ撤退問題ニ
關シ協議中モ屢々司令部付近ニ敵弾飛来シ支那側代表ヲシ
テ顏色ナカラシメタリ支那側ハ午後四時ヨリ同六時迄ノ間
撤退及撤去作業ヲ実行スヘク約セシカ午後六時武装保安隊
ノ撤退ヲ終リ且防禦工事ハ一部ヲ撤去シ残余ハ三十日撤去
ス可ク申シ來レルモ前電ノ如ク未タ検査ヲ行ハサルヲ以テ
其实行ノ如何ハ不明ナリ

198 昭和6年12月1日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

租界内危険区域居住邦人の避難引揚状況およ
び租界の現状について

天津 12月1日後発
本省 12月1日後着

第六四六号(暗)

租界内危険区域居住邦人婦女子ノ小学校、幼稚園、寺院等ニ避難中ノモノ三十日現在三百五十名又八日事変發生以来内地若ハ大連ヘノ引揚者累計七百五十八名ナリ我租界内ニ於ケル臨時戒厳ハ未タ解カレス仮租界トノ交通モ依然不自由ナリ在留民中生活困難ニ陥ルモノ激増ノ傾向アリ支那街ハ往電第六四五号布告ヲ發シ又電車モ一部開通シ午前七時ヨリ四時迄ヲ限り戒嚴ヲ解キタル由ナルカ英、仮租界ヘノ避難民尚相繼ク状況ニシテ事態ハ引続キ少康ヲ得居ルモ一般ノ不安去ラス

支、北平、南京、奉天へ転電セリ

199 昭和6年12月1日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

天津駐屯軍への増援隊到着について

天津 12月1日後発
本省 12月1日後着

第六四七号(暗)

貴電第一一〇号増援兵ハ一日午前八時四十分到着セリ軍部ニ於テハ其中一個中隊ヲ塘沽ヨリ海路山海關ニ派遣スル案モアリシ処結局全部隊当租界ニ入ルコトトナリ差当リ他ニ移動セシメサル由尚塘沽ヨリ来津セル陸戦隊一三〇名ハ二日朝帰還ノ筈(当地駐屯軍ノ現有兵力ハ三箇中隊ナリ)公使、北平、奉天、濟南、青島、南京、漢口、廣東、連盟、米ヘ転電セリ

200 昭和6年12月1日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

引揚げ用船舶の天津繫留について

天津 12月1日後発
本省 12月1日後着

第六四九号(暗)

本官發奉天宛電報

第三〇号
左ノ通閲東庁へ転電アリタシ

奉天總領事宛貴電第九号ニ関シ

一日朝帽島丸ハ天津三円島丸ハ塘沽三夫々入港セリ(円島

丸ハ当地へ遡航中)其ノ後状況漸次緩和シ目下ノ處引揚ノ

要無カルヘシト認メラルム万一一ノ為両船トモ事態ノ見極メ付ク迄暫ク当地ニ止メ置クコトトセリ右御含ヲ請フ

大臣へ転電セリ

201 昭和6年12月2日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

時局の鎮静に伴ない避難所收容中の邦人の帰

宅および義勇隊の解除について

第六五三号(暗)

時局引続キ鎮静ニ向ヒツツアルヲ以テ租界内避難所ニ收容中ノモノハ二日全部帰宅セシムルコトセリ又義勇隊ハ二

日ヨリ帰宅待命トナリタルガ實質的ニハ招集ヲ解除シタルト同様ナリ

202 昭和6年12月2日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

日中両軍衝突の責任の所在について

天津 12月2日後発
本省 12月3日前着

第六五四号(暗)

本官發支宛電報

第五五六号

南京發貴公使宛電報第七五六号ニ関シ

二十六日以来ノ日支衝突ハ支那側ニ於テモ承認シ居ル通り暴徒カ租界外万德莊、砲台莊等(日本兵當付近ノ部落)ニ

出現シタルニ拘ラス保安隊ハ我兵營及租界ニ向ケ乱撃ヲ加ヘ來リ同夜我方ヨリ數十回ニ亘リ抗議シタルモ射撃ヲ停止セサルニ付故意ニ我軍ニ対スル敵対行為ヲ執ルモノト認メ

応射シタルモノニシテ其責任ノ所在ハ全ク先方ニアリ而モ「暴徒出現ノ場所カ日本租界ニ接近又ハ隣接セル」故ヲ以テ直ニ暴徒カ租界ヲ利用セリト断スル暴言ニ對シテハ我方ニ於テ黙過シ得サル儀ト存セラル尚二十九日午後保安隊河

北撤退以来現在迄一発ノ銃声ヲ聞カス一人ノ便衣隊モ出現セサルハ從来ノ射撃カ總テ保安隊ニ依リ行ハレタルコトヲ

証明スルモノナリ（二日午後八時）

大臣、南京、奉天、北平へ転電セリ

~~~~~

203 昭和6年12月2日

在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

### 天津市政府において日本軍砲撃地帯の被害状況を新聞記者へ公開について

第六五五号

天津 12月2日後発  
本省 12月3日前着

市政府ニ於テハ三十日外支新聞記者ヲ招待シ參事及秘書等ノ案内ニテ日本軍砲撃地帯ノ被害状況ヲ視察セシメ家屋ノ破損個所並死体ヲ写真ニ収メシメ極力宣伝ニ努メツツアル處支那側ノ損傷中ニハ便衣隊又ハ支那側迫撃砲弾（我力警備線ニ達セス支那街ニ落シシ為）ニ依ルモノモ鮮カラス我軍ノ砲撃ハ主トシテ示威的二行ハレタルヲ以テ其ノ損害ハサシテ大ナラスト認メラル

支、北平、奉天、南京、米、連盟事務局長ニ転電セリ

ついて

204 昭和6年12月3日

在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

### 天津事件の影響による居留民困窮者の救済について

第六五九号（暗）

満州事変以来当方面ノ排日貨運動深刻化シ居留民中ニ生計

ニ困難ヲ來スモノ次第ニ増加ノ傾向アリシ處十一月八日及二十六日再度ノ日支衝突ニ依リ各方面支那人ノ混亂甚タシク今尚何等ノ落着ヲ見セサル為支那人相手ノ商売殊ニ小売ハ全然杜絶シ加フルニ租界内支那人ハ殆ト全部家財道具ト共ニ英仏租界ニ引越シタル実状ニシテ逮ニ其復旧ヲ望ミ難ク租界ノ原状恢復並市場ノ復活ハ當分見込ナシト認メラル處差当リ邦人二百家族約千人ハ日常ノ生活資料ニモ困窮シ其窮状見ルニ忍ヒサルモノアリ目下同好会（貴電第一〇一号）ノ如キ慈善團体ニ於テ対策講究中ナルモ何分ニモ資金ナキ為如何トモナシ得ス又民團、財團トモ租界カガラ空トナリシ關係上數十万弗ノ收入減ニシテ居留民救済ノ余力

天津 12月3日後発  
本省 12月3日後着

ナキ事態ナルニ付テハ此際前記困窮者ニ對シ一人金三十円平均総額三万円ヲ支給シ當面ノ困窮ヲ救濟スルト共ニ全然見込ナキモノハ當地ヲ引払ハシムルコトト致シタク費用多端ノ際乍ラ右支出方ニ付特別ノ御詮議相仰キ度結果何分ノ儀御回電アリ度シ

（付属書）

一二月三日付「天津民国日報」

### 中国側の天津事件による損害発表について

付属書 一二月三日付「天津民国日報」

205 昭和6年12月3日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛

天津事變ニ付スル支那側損害調查送付ノ件

在天津

總領事 桑 島 主 計（印）

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

天津事變ニ付スル支那側損害調査送付ノ件

天津市政府カ中外新聞記者二十余名ヲ招待シ政府員案内ノ下ニ今次事變ニ依ル被害状況ヲ視察セシメタルコトニ就テ



二砲声轟キ弾丸ハ我カ兵營及租界ニ飛來シ同時ニ三不管家

面及白河沿岸ヨリ頻リニ銃砲声響キ渡リ我カ租界内ハ危険

極マリナキヲ以テ我カ軍ハ租界境界線ノ配置ニツキタルモ

隱忍シ居ル處貴方ニ於テ即時停止セシメラレサルニ於テハ

自衛上応射スヘク之レニヨル損害ハ當然貴方ノ責任ニ帰ス

ヘキニ付左様御承知置相成度シ尚ホ貴府員カ本夜当館員ニ

語レル処ニヨレハ貴方ニ於テハ二十五日若ハ二十六日便衣

隊カ再ヒ暴動ヲ起スヘシトノ消息ヲ得ラレ居リシ趣ナルニ

拘ハラス境界ヲ接続セル我方ニ何等ノ通告ナク又協力防止

方ノ申出モ無ク突然射撃ヲ開始シ我方租界ニ多大ナル不安

ヲ与ヘタルハ曩ニ貴我間ニ申合ハセタル我租界ニ弾丸ノ飛

来セシメサル様措置スヘシトノ約ニモ反スル次第ニテ本總

領事ノ頗ル遺憾トスル處ナリ就テハ今後此種陰謀ヲ予知セ

ラレタル場合ハ即時我方ニ通告シ以テ誤解ヲ防キ事端ヲ釀

ササル様致度此段火急照会旁々得貴意候 敬具

昭和六年十一月二十六日

在天津

天津市長 張學銘殿

日本總領事 桑島主計

中華民国二十九年十一月二十九日

別紙丙号

駐津日本總領事桑島

貴領事館軍部請勿誤会在案不料

貴國軍部方面因此發生誤向華界射放槍砲甚烈終夜不息以致中國方面受極大損失

貴方自難卸責拠調查所得計死警察五名傷二十余名其未經查明者應先聲明保留又二十七日敵方業已絕對禁止放槍而

貴方仍不時有槍砲向我方射擊万一因此拡大糾紛則與

貴我兩國素來親睦之誠意相反應請

転知軍部勿再有此拳動是所至幸相應函復即希

查照為荷此致

別紙乙号

天津市政府公函 字第一〇号

逕復者關於本月二十六日晚本市發生不幸事故一案接准二十日來函業已閱悉查二十六日晚八時余海光寺方面有便衣隊

數十人前來進攻保安隊並未還擊僅擲手榴彈以資自衛是時曾通知

貴領事館軍部請勿誤会在案不料

貴國軍部方面因此發生誤向華界射放槍砲甚烈終夜不息以致中國方面受極大損失

貴方自難卸責拠調查所得計死警察五名傷二十余名其未經查明者應先聲明保留又二十七日敵方業已絕對禁止放槍而

貴方仍不時有槍砲向我方射擊万一因此拡大糾紛則與

貴我兩國素來親睦之誠意相反應請

転知軍部勿再有此拳動是所至幸相應函復即希

查照為荷此致

方ノ申出モ無ク突然射撃ヲ開始シ我方租界ニ多大ナル不安

ヲ与ヘタルハ曩ニ貴我間ニ申合ハセタル我租界ニ弾丸ノ飛

来セシメサル様措置スヘシトノ約ニモ反スル次第ニテ本總

領事ノ頗ル遺憾トスル處ナリ就テハ今後此種陰謀ヲ予知セ

ラレタル場合ハ即時我方ニ通告シ以テ誤解ヲ防キ事端ヲ釀

ササル様致度此段火急照会旁々得貴意候 敬具

方ノ申出モ無ク突然射撃ヲ開始シ我方租界ニ多大ナル不安

平和維持ノ為ノ援助ハ御尤ニシテ特ニ米国政府ノ今回ノ事件ニ対スル注意深キ態度ハ日本側ニ於テモ謝意ヲ以テ諒解シ居ル處ナルカ右警察ノ目的ヲ以テスル中立区域ニ於ケル外國軍隊ノ駐屯案ノ如キハ事實我カ軍隊ノ行動ヲ束縛スルモノニシテ支那側ノ切望ニ出テタリト見ルノ外ナク日本政府カ事件ノ当初ヨリ第三國ノ介入ヲ排除セントスル方針ニ合致セス故ニ若シ提出セラレタリトスルモ我方ノ承諾シ得ル限リニアラス

連盟ノ如キカ事態ヲ充分明カニセサル為過早ニ公平ナルカ如キ外觀ヲ有シ而モ事實支那ノ間接ノ提案トモ見ラルヘキモノヲ持チ出シ來タリ日本側ノ感情ヲ刺戟スルコト多々アルハ遺憾ナリ

トノ感想ヲ述へ置キタリ

連盟、米、北平、廣東、天津へ転電セリ

大臣ヨリ奉天、哈爾賓へ転電アリタシ

208 昭和6年12月4日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

天津市街の治安狀況について

天津 12月4日後發

209 昭和6年12月4日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

天津駐屯軍と中國軍間の和解に関する斡旋について

天津 12月4日後發  
本省 12月4日後發

第六六三号（暗、至急）

軍ニ於テ貴電第一〇六号中央ノ訓令ニ拘ラス之ヲ実施セス却テ二十八日王樹常ニ対シ往電第六三一号ノ如キ覚書ヲ送付シ強硬ナル態度ヲ保持シタルコト既報ノ通リナル處斯くてハ事態拾収ノ途ニ非サルヲ以テ本官ニ於テハ往電第六三六号ノ通リ支那側ヲシテ保安隊ヲ河北ニ撤退セシメ（（往電第六〇七号）軍ノ要求第三項）之ニ依リ事實上敵対行為ヲ中止セシメタル（第一項）次第ナルカ尚双方実力者間ノ感情ノ融和ヲ計リ何等誤解等ニ依ル再衝突ヲ防止スルト共ニ将来ニ於ケル我軍ノ行動ヲ公平自由ナラシムル上ニ於テモ当事者間ニ於テ一応ノ解決ヲ付ケシメ置クコト必要ト存シタルヲ以テ軍司令官トモ話合ノ上三十日ヨリ引続キ周龍

本省 12月4日後着

第六六一号（暗）  
其ノ後状況左ノ通

（一）保安隊ノ河北撤退ト共ニ支那側ノ憂慮シタル便衣隊モ姿ヲ隠シタルモノナルカ二十九日以來銃声ナシ

（二）支那街ノ防禦工事撤去ハ引続キ進行中尤モ我カ増援隊ヲ懸念シタル故カ白河岸ニ沿ヒ河北方面へ新ニ陣地構築ナル由ノ情報アリ

（三）仮租界トノ交通ハ殆ト制限ナシ支那街トハ目下五ヶ所ノ道路ヲ午後八時迄開キ居レリ電車ハ五時迄ヲ限り平常通り運行ス白河ノ交通モ常態ニ復セリ当租界ニ入ルモノニ對シ身体検査ヲナシ居ルモ一両日中廢止ノ筈

（四）我カ警戒線ハ未タ全ク解クニ至ラス戒嚴令ハ四日零時ヲ期シ撤廃ノ筈

（五）邦人各学校四日ヨリ再開セリ但シ中日学院ハ増遣隊ノ臨時宿舎トナシアル為邦人職員及学生ノミニテ開校（内支那街ヨリノ避難民相変ラス多數ニシテ我カ租界ヲ素通りニシ英仏租界ニ入りツツアリ人心未タ安定ヲ見ス

支ヨリ上海、南京へ転電アリタシ

210 昭和6年12月5日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

第二次天津事件における駐屯軍の意図について

天津 12月5日後  
本省 12月5日後着

一時休養トシ事無キヲ得タリ

第六六四号（暗、部外絶対極秘）

第一次天津事件ニ付御参考迄左ノ通り

(一) 事件突発スルヤ軍ハ直ニ戦闘開始ヲ命シ徹底的ニ支那側

ヲ膺懲スヘシト声明シタルカ機関銃ハ素ヨリ山砲及十二  
珊瑚砲スラ用ヒ相當過度ナル応射ヲ為シタルハ事実ニシテ  
右目的ハ事態ヲ拡大シ増兵ノ口実ヲ作ルト共ニ一部ニハ  
之ニ依リ支那側正規軍ヲ挑発シ之ト交戦シ一挙学良切崩  
ノ端ヲ作ラントスルモノアリシカ如シ

(二) 従テ義勇隊ニ対シテモ軍ハ近ク積極的攻撃ニ出テ支那街  
ヲ占領シ排日運動ノ禍根ヲ絶ツ方針ナル旨絶エス公言シ  
タル為隊員中ニハ之ヲ信シ乱射乱撃ヲ為シ普通人ヲ傷ケ  
シモノモアリシ模様ナリ

(三) 然ルニ増援隊來津確定シ一方二十九日保安隊ノ河北撤退  
ニ依リ射撃杜絶スルヤ軍ハ三十日義勇隊ヲ解散スル旨發  
表シタルヲ以テ隊員ノ大部分ハ軍ニ何等定見ナク勝手ノ  
都合ニテ隊員ヲ愚弄セリト為シ居留民大会ヲ開キ之ヲ糾  
弾スヘシト敦園キタルカ軍ハ戒厳令ヲ振翳シ之ヲ抑圧シ

(四) 戒厳令ハ當方ニハ無断ニテ發令シタル後大体貴電第一〇  
五号ノ如キ説明ヲ為シ來レルカ實際ニハ新聞ヲ操縦シ時  
局ヲ大袈裟ニ伝フル為ナリシカ如シ其後前項ノ紛糾生ス  
ルヤ謠言取締集会禁止等全ク對内的命令ト化シ對外的ニ  
ハ殆ト必要ナキニ拘ラス四日迄存続セラレ加フルニ支那  
街ノ戒嚴ト同一視セラレタル為租界内支那人ノ引揚者増  
加セルハ遺憾ナリ（貴電第一〇五号トハ反対ニ中央軍部  
ヨリハ戒嚴ハ合法ナラサル旨指令アリシ由）

(五) 尚戒嚴ニ次キ二十七日司令官ノ名ヲ以テ軍事行動ヲ妨害  
シ又ハ治安ヲ妨害スルモノノ軍民ノ生命財産ニ危害ヲ与フ  
ル者日本人ノ使用スル支那人ヲ脅迫殺害スル者及之カ未  
遂罪ハ軍律ヲ以テ処分スル旨布告セルカ之亦相當非難ア  
リ

(六) 軍ハ往電第六六三号王樹常ノ文書案中「反日嚴重取締」  
ノ程度ニテハ不満ナル模様ナル處内実ハ第二項ノ如キ方  
法ヲ為シ居タル手前引込付キ難キ事情アルカ如シ  
要之八日ノ暴動以來土肥原及軍ニ対スル不満漸次台頭シ  
二十六日銀五千円ノ慰労金ヲ支給セラレタル義勇隊スラ

今日ニ於テハ怨嗟ノ声ヲ放ツニ至リ 一方當方ノ公正ナル  
態度ハ漸次了解セラレ來レルカ何分ニモ軍ハ強キ一方ニ  
テ之トテ確定セル企図方針ナキ為引続キ掣肘ニ努力シ居  
ルモ今後ノ行動ハ懸念ニ堪エサルモノアリ就テハ適當ノ  
機会ニ於テ中央（軍）部ヨリ大局ヲ説キ此ノ上共自重ヲ  
促サシムル様然ルヘク御高配相成タン  
支へ転電セリ

いて  
付屬書 一月二二・二五・二九日付桑島總領事・王河  
北省主席並びに張天津市長間往復文書  
本件ニ關シテハ往電第五七八号ヲ以テ申進シ置キタル通り  
十一月二十二日付ヲ以テ王樹常並ニ張學銘ニ対シ別紙甲号  
及乙号写ノ通り夫々申入レタルニ對シ王主席ヨリハ同二十  
五日付ヲ以テ別紙丙号写ノ通り回答アリ張市長ヨリハ何等  
回答ニ接セサルニ先チ二十六日夜第二次事變ノ發生ヲ見事  
態ハ益々拡大セントスル虞レアリシニ依リ本官ハ之レカ防  
止ノ為メ王主席ヲシテ兎モ角保安隊ヲ自發的ノ形式ニテ河  
北一带ニ撤退セシムベシト勧告シタル結果王ハ之レヲ受諾  
シ當館ノ斡旋ニテ軍司令部ト打合セノ上別紙丁号ノ通リ軍  
司令官宛書面ヲ以テ自發的ニ保安隊全部ヲ河北ニ撤退スヘ  
キ旨ヲ申出テ二十九日午後四時ヨリ撤退ヲ開始シ之レト同  
時ニ張市長ヨリハ本官ニ対シ別紙戊号写ノ如キ通牒ヲ送付

211 昭和6年12月5日

在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

天津における戒厳令の解除について

天津 12月5日後  
本省 12月5日後着

公信機密第一一二七号

保安隊撤退ニ關スル件

第六六五号（暗）  
往電（二〇八文書）  
第六六六一號ニ關シ  
戒嚴ハ五日朝解カレタリ  
在支公使、北平へ転電セリ

212 昭和6年12月5日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛

中国保安隊の撤退に関する往復公文送付につ

越セリ

昭和六年十一月二十二日

在天津

日本總領事 桑島主計

右保安隊撤退実施セル二十九日夜以来一発ノ射撃モナク事  
態平静ニ帰シタル点ヨリ按スルニ十一月八日以来ノ射撃ハ  
全ク支那側保安隊力便衣隊三名ヲ藉リ我方陣地ニ向ケ故意  
ニ狙撃ヲ加ヘタルモノト認メラル

本信写送付先、公使、北平、奉天

別紙甲号

(付属書)

書翰ヲ以テ啓上致候陳者本月八日暴動發生以來我警戒兵並  
ニ我カ租界ニ対シ無差別ナル射撃ヲ加ヘ我方ニ向ヒ敵対行  
為ヲ執レル貴國保安隊ハ其ノ素質組織武装及訓練等ノ点ニ  
於テ貴國正規兵ニ準スヘキ軍隊的組織ト看做サルル處将来  
斯ノ如キ不都合絶対無之様所屬長官ニ嚴飭相成リ之カ訓育  
指導ニ付欠クル所無カラシメ以テ貴我両国ノ敦交ヲ図ルコ  
トト致度尚巷間伝フル所ニ依レハ正規軍ノ一部ハ保安隊ニ  
改編セラレ今尚当地ニ留マリ居ル由ニシテ本總領事ニ於テ  
ハ右ハ所謂謠言ニシテ何等其ノ事実無之コト相信シ居ル  
モノニ有之候ヘ共コノ点ニ付貴主席ノ確認ヲ得ハ欣幸トス  
ル次第ニ有之右照会旁々得貴意候 敬具

別紙乙号

書翰ヲ以テ啓上致候陳者津市ノ治安維持ニ付全責任ヲ負ヒ  
之ニ当ラル貴市長ニ於テ之カ為巡警ヲ用ヒラルト將又  
保安隊ヲ使ハルトハ敢テ我方ノ問フ處ニ非サルモ本月八  
日暴動發生以來連日連夜我方ニ対シ保安隊力不軌ノ敵対行  
動ニ出テ我カ軍民ニ多大ノ損害ト迷惑ヲ蒙ラシメタル事態  
ニ鑑ミ曩ニ十一月十八日付公文ヲ以テ今後保安隊ノ節制ニ  
十分注意セラレ斯ノ如キ暴季ノ再發ヲ絶対的ニ防止相成度  
旨申入レ置キ候處日本租界ニ近接セル地域内ニハ素質訓練  
等ノ点ニ於テ最モ優良ナル保安隊ヲ入レ其ノ任務ヲ充分徹  
底セシメラルト共ニ長銃其ノ他ノ戦闘用武器ヲ携帶セシ  
メサル様御手配相成候ニ於テハ不祥事件ノ發生防止ヲ愈々  
確保シ得ルコトナリ貴我双方ニトリ誠ニ好都合ト思料セ  
ラレ且右ハ両国國交ノ敦厚ヲ常時顧念セラル貴市長ニ於  
テ必スヤ即時御同意有之所ト期待スル次第二候

尤モ右ハ租界警戒線上ニアル我方警備施設ヲ撤去シタル後  
ノコトニシテ右撤去ニ至ル迄ハ租界境界線ノ外側三百米ノ

地域内ニハ貴方保安隊ヲ入レサルコトニ付王省政府主席ト  
我カ香港司令官トノ間ニ既ニ諒解済ナルハ御承知ノ通ニ有

之候尚八日以来不軌ノ行動ニ出テタル保安隊員ノ戒飭ニ関  
シテハ貴方ニ於テ既ニ自發的ニ相当ノ御措置相成候コトト  
押察致シ居ル次第ニ有之右照会旁々得貴意候 敬具

昭和六年十一月二十二日 在天津日本總領事 桑島主計

天津市長 張學銘殿

別紙丙号

河北省政府公函 字第一七二七号

啓復者接准

貴總領事十一月二十二日函開各節業經詳悉查自本月八日晚

便衣隊暴動以後敝國保安隊之行動專在剿除擾亂津市治安之  
便衣隊並無敵對

貴國戒兵及租界之意且搜捕便衣隊已經

貴我兩方協商互相諒解此項保安隊係屬保衛津市地方治安之  
警察其素質組織等自与軍隊不同至所稱改編保安隊一節此種

謠言更何足信相應函復即希  
查照此致

駐津日本總領事桑島

中華民国二十年十一月二十五日 別紙丁号

逕啓者查本月八日津市發生事故以來貴我両方時有誤會殊深  
遺憾茲本主席為免除此項誤會起見特將所有保安隊再行自動  
的向後撤退並擬定臨時弁法四款一俟時局平靖即行取消其弁  
法如下

一、海河右岸南運河右岸金鐘河左岸之五区一所界内鐵道以  
西娘々廟大街小集大街及金鐘河左岸之一区五所界内所包  
含之地区酌留之保安隊僅持手榴彈及手槍但濟安自来水公  
司及金家客電燈房駐在之保安隊除外

二、特二区現無保安隊最近期間亦不駐防

三、如發現大股便衣隊需要增援時事先將兵數通過道路使日  
兵器通知日本軍部得其諒解撤退時亦同

四、接近日租界地方与便衣隊衝突時務用手榴彈  
別紙戊号

天津市政府照会 特字第四号

為照会事査本市自十一月八日發生事変以来

貴我両方時有糾紛本市長為避免双方誤会起見特再自動將所  
有保安隊分別逐漸撤退除由王主席派員与

貴軍部接洽並於本月二十九日下午四時起實行外相應函達即

希

查照為荷須至照会者

右照会

駐津日本總領事桑島

中華民国二十年十一月二十九日

213 昭和6年12月6日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

天津事件解決と王河北省主席の立場について

天津 12月6日後發  
本省 12月7日前着

第六七二号(暗)  
(二〇九文書)  
往電第六六三号ニ関シ

駐屯軍ノ請訓ニ対シ本官ノ斡旋ニ依リ成レル案ニテ事件解  
決方差支ナキ旨五日夜中央ヨリ回訓アリシヲ以テ王樹常ヲ  
シテ予テノ打合セニ從ヒ先ツ左記司令官宛公文ヲ六日午後

十一月二十六日便衣隊暴動以來我方保安隊ノ行動ハ専ラ天  
津ノ治安ヲ擾乱スル便衣隊ヲ掃除スルニアリテ断シテ貴方  
警戒兵ニ敵対スルノ意思ナシ計ラスモ便衣隊掃蕩ノ為射擊  
ヲ交ヘタル際誤解アリテ貴軍警戒線ニ向ヒ射擊シ貴軍士兵  
ヲ負傷セシメタルハ本主席ノ遺憾(抱歉)トスル所ナリ茲  
ニ今次ノ誤解ニ鑑ミ速ニ之ヲ根本ヨリ消滅センカ為左記保  
安隊ヲ當分河北ニ撤退セシメタルカ尚所属軍隊ヲ天津ニ置  
カス又天津付近ニ大軍ノ集合ヲ行ハス以テ誤解ノ再生ヲ避  
クルコトトセリ又反日侮日的言行ヲ嚴重取締ルコトニ付テ  
ハ重ネテ特ニ声明ス以テ将来貴我睦誼ノ敦厚タランコトヲ  
望ム

尚引続キ王ハ司令官ヲ往訪シ陳謝ノ意ヲ述フル筈(昨五日  
ヨリ病臥中)又軍ハ右遺憾ノ表示ヲ諒承シ約束不履行ニ依  
リ不祥事件再発スル場合ノ責任ハ一切先方ニアル旨ノ文書  
申入レヲ為ス予定ナリ

本件交渉ハ事態拡大ヲ防止スル目的ヲ以テ双方軍当局者間  
ノ諒解成立ヲ急キシモノニシテ今後ノ外交交渉ニシ或ハ  
之ヲ利用スル時期アルヘキモ目下ノ處ハ王樹常ノ南京政府

本件ニ關シ御参考迄別紙ノ通り報告ス  
本信写送付先 在中華公使 北平 上海 奉天 青島

(別紙) 記  
濟南 南京

ニ対スル内部的立場ニモ鑑ミ成ルヘクハ発表モ見合セタキ  
所存ナリ  
奉天へ転電アリタン  
支、北平、青島、濟南、南京、漢口、廣東、連閔、米へ転  
電セリ  
支ヨリ上海へ転報アリタシ

214 昭和6年12月6日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛

天津事件による日本租界の繁榮について  
ス・イギリス租界の繁榮について

公信第一一二八号  
昭和六年十二月六日

在天津

天津 12月6日付  
本省 12月21日着

総領事 桑島主計(印)

外務大臣男爵 幣原喜重郎殿

今次事変ニ因ル日本租界ノ衰微状況ト仏英  
租界ノ繁榮状況ニ関シ報告ノ件

送達セシメタリ  
十一月二十六日便衣隊暴動以來我方保安隊ノ行動ハ専ラ天  
津ノ治安ヲ擾乱スル便衣隊ヲ掃除スルニアリテ断シテ貴方  
警戒兵ニ敵対スルノ意思ナシ計ラスモ便衣隊掃蕩ノ為射擊  
ヲ交ヘタル際誤解アリテ貴軍警戒線ニ向ヒ射擊シ貴軍士兵  
ヲ負傷セシメタルハ本主席ノ遺憾(抱歉)トスル所ナリ茲  
ニ今次ノ誤解ニ鑑ミ速ニ之ヲ根本ヨリ消滅センカ為左記保  
安隊ヲ當分河北ニ撤退セシメタルカ尚所属軍隊ヲ天津ニ置  
カス又天津付近ニ大軍ノ集合ヲ行ハス以テ誤解ノ再生ヲ避  
クルコトトセリ又反日侮日的言行ヲ嚴重取締ルコトニ付テ  
ハ重ネテ特ニ声明ス以テ将来貴我睦誼ノ敦厚タランコトヲ  
望ム

## 一、日本租界ノ衰微状況

第一次事件勃発後支那側ノ陳謝ニ依リ一度ヒ小康ヲ得タル我租界ハ十一月二十六日夕第二次事件発生ニ依リ急転直下ノ勢ヲ以テ第一次事件當時ノ状態ニ逆転セルノミナラス租界ハ一層不安ニ襲ハレ我租界内ノ経済活動全然停止セル為メ金融ノ途絶シ居留民ハ纏ニ昼間食料品ヲ購入シ得ル程度ノ窮状ニテ日ヲ送リ居タル有様ナリシ処其間當館ノ支那側及日支両國軍憲ニ対スル折衝、斡旋並ニ支那側ノ我方ニ対スル陳謝及保安隊ノ後退実行等ニ依リ事態ハ再ヒ小康状態ニ入り十二月一日ハ関東軍ヨリノ増遣隊到着シ人心更ニ落着キ同三日ヨリ租界内電車ノ運行ヲ開始スルト共三日支商店ノ開店スルモノ弗々生シ今日ニ於テハ已ニ邦人商店ハ殆ト全部店舗ヲ開キ支那人商店モ三、四割方开店シ且避難地ヨリ帰還シ来ル支那人（主トシテ小商人）モ少數ナカラ見エ始メタル為メ我租界ニハ何トナク明ルキ氣分台頭シタルカ尚一般ハ時局ニ対シ警戒氣分ノ儘形勢觀望シ居ル模様ナリ

今次事変後我租界内支那人ノ仏、英租界方面ニ移転又ハ一時引越セル者頗ル多數アリ殊ニ第二次事件前後ノ約一モニ、四割方开店シ且避難地ヨリ帰還シ来ル支那人（主トシテ小商人）モ少數ナカラ見エ始メタル為メ我租界ニハ何トナク明ルキ氣分台頭シタルカ尚一般ハ時局ニ対シ警戒氣分ノ儘形勢觀望シ居ル模様ナリ

今次事変後我租界内支那人ノ仏、英租界方面ニ移転又ハ一時引越セル者頗ル多數アリ殊ニ第二次事件前後ノ約一モニ、四割方开店シ且避難地ヨリ帰還シ来ル支那人（主トシテ小商人）モ少數ナカラ見エ始メタル為メ我租界ニハ何トナク明ルキ氣分台頭シタルカ尚一般ハ時局ニ対シ警戒氣分ノ儘形勢觀望シ居ル模様ナリ

蒙レル損害額ハ目下数字的ニ計上スルコト困難ナルモ巨額ニ達スル見込ニシテ事態全ク平静ニ帰シ且今後排日貨運動ノ終熄ヲ見ルコトモアラハ支那商人ノ我租界帰還ハ仏、英租界ノ家賃等高率ナル関係モアリ案外速カナルヘク期待サルルモ住宅居住者ノ帰還ニ付テハ一般ニ之ヲ悲観スル向多ク居留民側ニ於テハ税金及電燈料、水道料ノ徵収ニ頗ル困難ヲ感シ巨大ナル収入減ニ悩ミ居レリ事態斯ノ如クナルヲ以テ租界復活及居留民更生ノ為メ善後対策ヲ講スルヲ目的トシ居留民団、財團法人共益会及日本商業會議所ノ三機関ヨリ夫々五名ノ委員ヲ出シテ事変善後委員会ヲ組織シ十二月四日第一回ノ会合ヲ催シ先ツ第一着手トシテ租界内支那人ヲ一日モ早ク帰還セシムヘキ具体策ニ付腐心中ニテ一方租界内支那大商店等ニ依リ組織セラレ居ル紳商公会ニ於テモ支那商人ノ為メ租界交通緩和其他ニ闇シ過日ヨリ活動ヲ為シ居レリ

我租界内ノ邦人銀行タル天津、正隆ノ両銀行ハ目下共二午前十時ヨリ午後三時マテ開店シ居リ七日ヨリハ平常通り午前九時ヨリ午後三時マテ開店ノ予定ニシテ其預金及送金等ノ取扱額二日頃ヨリ幾分増加ノ傾向アルモ為替取

## 週間ハ支那街ニ発生セル謠言等ニ依リ支那街内ノ支那人

ト共ニ夥シキ数ニ上リ其ノ混雜ヲ極メタルコトハ第二次事件発生後ノ一両日ノ如キ仏英租界方面ヨリ自動車ヲ傭フニ日本租界ヨリ他租界迄片道十弗乃至二十弗甚シキハ四十弗乃至六十弗（平常ハ一弗乃至三弗位）ノ高率ナル料金ヲ支払ハサレハ容易ニ之ヲ求メ得サリシコトニ徵シテモ明カナル処ナリ

我租界内ノ他租界引越支那人數ニ付テハ未タ詳細ナル數字ヲ得サルモ五日現在居留民団ノ調査ニ依レハ一時避難者数千百十五戸、当分帰還ノ見込ナキ移転者数三百八十五戸計千五百戸ニシテ租界内支那人戸数約三千ニ比スレハ約半数ハ日本租界ヨリ立退キタルモノト看做スヘク現ニ租界自拔キノ商店街タル旭街ニ付テ見ルモ目下支那人商店ノ閉店シ居ルモノ老九章、大編等ノ大商店ヲ首メ中小商店共約百六十軒ニ上リ此中大部分ハ店舗ノ商品ヲ仏、英租界ニ移転シデパートメント、ストア中原公司ノ如キモ倉庫品ノ一部ヲ仏租界ニ移セル趣ニテ支那街ニ接近セル支那人商店ノ町並ハ殆ト空洞同様ノ有様トナレリ右ノ状態ハ租界経済上重大視スヘキモノニシテ我租界ノ

## 二、仏英租界ノ繁榮状況

支那街及日本租界ヨリ仏英租界方面ヘ避難セル支那人ハ十一月八日ヨリ一週間程ノ間ハ左マテ頗著ナラサリシカ程度ニ至ラサル為メ当地相場建タス已ムナク上海建値ヲ標準トシ幅広ノ見込相場ヲ建テ居ル有様ナリ尚租界内邦人小学校及高等女学校ハ十二月四日ヨリ開校セリ

今次事変ニ依リ最モ繁榮ヲシタルハ仏租界ニシテ英租界之ニ次キ同方面ニ於ケル宿屋ト云フ宿屋ハ満員立錐ノ余地ナク甚シキハ其ノ（脱）下ニ起居スルモノモアリトノコトニテ「アスター」、「ハウス」、「インペリアル」、「ホテル」、「コート」、「ホテル」ノ如キ大旅館ニノミ僅ニ少數ノ空室

- ヲ存シ居ルニ過キスト云フ又貸家貸間ハ勿論店舗貸シモ三ヶ月又ハ六ヶ月等ノ前金ヲ以テ奪合ヒノ状態ニテ縁辺知ルヘノ家ニモ割込マルル丈ヶ割込ミ居ル模様ナリ家賃ハ仮租界最モ高率ニ英租界之ニ繼キ平常ノ三倍乃至四倍甚シキハ十倍ニモ達シ室料ノ如キモ同様ナル趣ナリ其他ノ商売ニアリテハ食料品店ノ如キ特ニ非常ナル盛況ヲ呈シ仮英租界ノ外日本租界等ヘモ供給シ又籠城用トシテ売行クモノ甚タ多シト云フ右ノ外各種商店及活動写真、遊里等ノ盛り場ノ殷賑目覚シク約一ヶ月ニ亘リ日本租界ノ死都ノ観アルニ対シ仮租界ノ如キ不夜城其ノモノニテ一道路ヲ距テテ誠ニ奇異ナル対照ヲ為シ居レリ尚聞ク處ニ依レハ仮英租界ノ電話架設申込數最近激増シ当局ニ於テハ其ノ措置ニ困シ居ル趣ナリ
- 215 昭和6年12月7日 在天津桑島總領事より  
整原外務大臣宛(電報)
- 天津居留民避難のための回航船舶の帰航について
- 天津 12月7日後発  
本省 12月7日後着
- 216 昭和6年12月7日 在天津桑島總領事より  
整原外務大臣宛(電報)
- 天津軍より一個小隊北平へ増派について
- 天津 12月7日後発  
本省 12月7日後着
- 第六七五号
- 本官發北平宛電報
- 第七五号
- 往電第六九号ニ關シ
- 軍部ニテハ一個小隊(三十名)ヲ明八日朝当地發列車ニテ
- ルヲ以テ一両日ニ發表ノ筈ナル旨内話セリ
- 因ミニ学銘ハ五日午後赴平シ本八日正午帰津シタルカ近ク北平ニ移転シ静養ノ予定ナリト
- 公使、北平、奉天、南京、濟南、青島ニ転電セリ
- 公使ヨリ上海ニ転報アリ度シ
- 217 昭和6年12月8日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)
- 張天津市長の日本側に対する態度および同人の病氣休暇について
- 天津 12月8日後発  
本省 12月8日後着
- 第六七八号
- 張學銘ノ當方ニ対スル態度兔角誠意ナキ事情ハ本官發公使宛電報第五一九号中ニモ報告シタル通リニシテ又今次保安隊ノ不都合ニ付テモ當面ノ責任者ナルニ拘ラス凡ヘテ王樹常ヲシテ我方トノ交渉ニ当ラシメ居レリ曩ニ本官ヨリ周龍光ニ對シ今後ノ折衝上モ斯ル遣口ハ甚タ面白カラサル旨不滿ヲ洩シタルコトモアリ學銘ハ五日ニ至リ周ヲ同伴シ漸ク本官ヲ來訪シ一応ノ挨拶ヲナシタル次第ナリシカ八日午後本官他用ヲ以テ王樹常ニ面会シタル際王ハ張學銘ハ病氣ノ為予テ休暇ヲ申請中ナリシ処学良ハ之ヲ許シ周龍光ヲ市長代理ニ王一民(保安隊長)ヲ公安局長代理ニ夫々委任シタ

ヲ存シ居ルニ過キスト云フ又貸家貸間ハ勿論店舗貸シモ三ヶ月又ハ六ヶ月等ノ前金ヲ以テ奪合ヒノ状態ニテ縁辺知ルヘノ家ニモ割込マルル丈ヶ割込ミ居ル模様ナリ

家賃ハ仮租界最モ高率ニ英租界之ニ繼キ平常ノ三倍乃至四倍甚シキハ十倍ニモ達シ室料ノ如キモ同様ナル趣ナリ其他ノ商売ニアリテハ食料品店ノ如キ特ニ非常ナル盛況ヲ呈シ仮英租界ノ外日本租界等ヘモ供給シ又籠城用トシテ売行クモノ甚タ多シト云フ右ノ外各種商店及活動写真、遊里等ノ盛り場ノ殷賑目覚シク約一ヶ月ニ亘リ日本租界ノ死都ノ観アルニ対シ仮租界ノ如キ不夜城其ノモノニテ一道路ヲ距テテ誠ニ奇異ナル対照ヲ為シ居レリ尚聞ク處ニ依レハ仮英租界ノ電話架設申込數最近激増シ当局ニ於テハ其ノ措置ニ困シ居ル趣ナリ

第六七三号(暗)  
本官發奉天宛電報  
第三三号

左ノ通り関東庁へ転電アリタシ

本官發奉天總領事宛電報第三〇号ニ關シ当地ノ事態モ漸次安定ニ向ヒタルヲ以テ曩ニ御配慮ヲ煩ハシタル帽島及円島ノ二隻ハ一応帰還セシムルコトトシ本七日午後塘沽ニ下航シ明朝同地發大連ニ回航ノ筈御高配ヲ深謝ス

大臣へ転電セリ

216 昭和6年12月7日 在天津桑島總領事より  
整原外務大臣宛(電報)

天津軍より一個小隊北平へ増派について

天津 12月7日後発  
本省 12月7日後着

第六七五号

本官發北平宛電報

第七五号

往電第六九号ニ關シ

軍部ニテハ一個小隊(三十名)ヲ明八日朝当地發列車ニテ

ルヲ以テ一両日ニ發表ノ筈ナル旨内話セリ

因ミニ学銘ハ五日午後赴平シ本八日正午帰津シタルカ近ク北平ニ移転シ静養ノ予定ナリト

公使、北平、奉天、南京、濟南、青島ニ転電セリ

公使ヨリ上海ニ転報アリ度シ

218 昭和6年12月8日 在北平矢野參事官より  
幣原外務大臣宛(電報)

天津よりの増遣隊北平到着について

北平 12月8日後発  
本省 12月9日前着

第七三一号

本官發天津宛電報第九〇号

貴電第七五号ニ關シ

增遣隊(中尉以下三十七名ノ由)ハ八日正午無事着平セリ

大臣、公使へ転電セリ

219 昭和6年12月9日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

天津市街の現状について

天津 12月9日後発



新聞ニ発表セハ学良ハ窮地ニ陥リ之ヲ中止スル虞レアルコトハ軍部ニ於テモ承知シ居ル筈ト思考セラルニ拘ラス敢テ之ヲ公表スルカ如キハ寧ロ彼ノ自發的撤退ヲ中止セシメ前述ノ如ク閔内外ニ於テ之ヲ擊破スルノ機会ヲ求メ尚アハヨクハ下野ニ導カントスル意向ナリシモノトモ疑ハル（往電第六八六号発表ニ付テハ十三日ノ支那諸新聞及露西亜新聞ニ報道アリシ為係員カ之ヲ記者ニ告ケタル旨其後通告アリシカ軍カ之等新聞ヲ操縦シ居ルニ鑑ミ右報道ハ恐ラク軍部ヨリ出テシモノト察セラル）尚関東軍派遣部隊來津ニ付テハ當時本官ノ努力ヲ感謝シ居リシニ拘ラス本官ニハ何等予告スルコトナク其一半ヲ北平及山海關ニ派遣シ当地ノ警備ヲ離レシメタル経緯モアリ勿論此ノ上共軍部ノ反省ヲ促スヘキモ中央ヨリ徹底的ニ今後ノ行動注意方訓令ナキ限りハ何時如何ナル事端ヲ起シ折角復興中ノ我租界ヲ再ヒ困難ニ陥ラシメストモ限ラレス尚大局ニモ至大ナル悪影響ヲ及ホスノ惧レ多分ニアリ就テハ右御含ミノ上陸軍側ヨリ然ルヘク當地軍部ノ注意ヲ喚起セシメラレ度ク尚警備ノ任ニアル山海關守備隊カ此ノ任務以外ノ目的ヲ遂行スル場合ヲ虞レ居留民ヲ引揚シムルカ如キハ仮令已ムヲ得サルニモセヨ

新聞ニ発表セハ学良ハ窮地ニ陥リ之ヲ中止スル虞レアルコトハ軍部ニ於テモ承知シ居ル筈ト思考セラルニ拘ラス敢テ之ヲ公表スルカ如キハ寧ロ彼ノ自發的撤退ヲ中止セシメ前述ノ如ク閔内外ニ於テ之ヲ擊破スルノ機会ヲ求メ尚アハヨクハ下野ニ導カントスル意向ナリシモノトモ疑ハル（往電第六八六号発表ニ付テハ十三日ノ支那諸新聞及露西亜新聞ニ報道アリシ為係員カ之ヲ記者ニ告ケタル旨其後通告アリシカ軍カ之等新聞ヲ操縦シ居ルニ鑑ミ右報道ハ恐ラク軍部ヨリ出テシモノト察セラル）尚関東軍派遣部隊來津ニ付テハ當時本官ノ努力ヲ感謝シ居リシニ拘ラス本官ニハ何等予告スルコトナク其一半ヲ北平及山海關ニ派遣シ当地ノ警備ヲ離レシメタル経緯モアリ勿論此ノ上共軍部ノ反省ヲ促スヘキモ中央ヨリ徹底的ニ今後ノ行動注意方訓令ナキ限りハ何時如何ナル事端ヲ起シ折角復興中ノ我租界ヲ再ヒ困難ニ陥ラシメストモ限ラレス尚大局ニモ至大ナル悪影響ヲ及ホスノ惧レ多分ニアリ就テハ右御含ミノ上陸軍側ヨリ然ルヘク當地軍部ノ注意ヲ喚起セシメラレ度ク尚警備ノ任ニアル山海關守備隊カ此ノ任務以外ノ目的ヲ遂行スル場合ヲ虞レ居留民ヲ引揚シムルカ如キハ仮令已ムヲ得サルニモセヨ

甚タシキ矛盾ト存セラル  
公使、北平、奉天ニ転電セリ

天津事件に関する駐屯軍と中國側との往復文

223 昭和6年12月16日 在天津桑島總領事より  
天津事件に関する駐屯軍と中國側との往復文

大養外務大臣宛

書送付について

付屬書 一月一五・二七・二八日および一二月六日付

香椎天津軍司令官・王河北省主席間往復文書

天津 12月16日付

本省 12月28日着

公信機密第一一五六号

天津事変ニ關シ軍部対支那側ノ往復文送付ノ件

十一月八日夜当地支那街ニ於テ暴動發生スルヤ支那側ノ乱射亂擊ハ我カ租界警戒兵ヲ斃シ在留民ヲ傷付ケルニ至リシヲ以テ日支武装者ノ直接衝突ヲ避ケル為メ我軍司令官ハ不取敢保安隊ノ租界境界線ヨリ三百米後方ニ撤退方ヲ要求シタル處支那側ニ於テモ之ヲ承諾シ翌九日午前六時半迄ニ後退ヲ完了シタル旨声明シ来レルニ不拘引続キ我カ警戒線及租界ニ對スル射撃止マス（十一日及十二日未明最モ猛烈ナ

然ルニ十一月二十六日夜支那側ハ便衣反動分子ヲ剿除スル為ナリト称シ租界付近ニ於テ再ヒ發砲ヲ開始シタルカ不節制ナル保安隊ハ復又我カ警戒線及租界ニ向ヒ乱射シタルヲ以テ司令官ニ於テハ同二十七日付ヲ以テ王主席ニ對シ別紙乙号写ノ通り五ヶ条ノ要求通告ヲ發シタル處王ヨリ同日午後四時別紙丙号写ノ通回答ヲナシ来レリ司令官ハ右回答ヲ不満ナリトシ即時別紙丁号写ノ通声明ヲ發出スルト共ニ同二十八日付ヲ以テ王主席ニ對シ別紙戊号写ノ通覚書ヲ交付シ支那側対軍部間ノ感情ハ極度ニ悪化シ此ノ儘ニテ推移セハ遂ニハ收拾スヘカラサル事態ニ陥ルノ情勢ニ在リシヲ以テ本官ハ学良ノ特派セル周龍光ヲ介シ王樹常ニ事態ノ拡大防止ノ為メ此際保安隊ヲ河北ニ撤退セシメ誠意ヲ披瀝スルト共ニ一切ノ射撃ヲ絶対ニ停止セシムル様勧説シ二十九日夫々之レヲ実行セシメ當面ノ危機ヲ排除シ得タルカ尚二十六日夜以来支那側ノ我軍ニ對スル敵対行動ニ閔シ双方軍部レタルヲ以テ更ニ支那側ヲ極力説得ノ結果十二月六日付シテ右ナシ不取敢十四日軍隊ノ二十支里外ニ撤退方ヲ要求付本官ハ支那側ノ不誠意極マル欺瞞的行動ニ對シ嚴重ナル抗議ヲナシ受諾セシムルト共ニ（十二月三日付機密第一一二三号御参照）王樹常ヲ勧説シ十五日館員ノ案内ニテ司令官ヲ往訪セシメ其ノ不都合ヲ陳謝セシメ別紙甲号写ノ通り陳謝状ヲ認メシメタリ

樹常ノ権限内ニ於テ出来得ル限りノコトハ受諾セシメ尚同人ノ健康恢復ヲ俟テ司令官ヲ往訪陳謝セシムル手筈ナリ

右報告ス

本信写送付先 在華公使、北平、奉天、濟南、青島、上海、南京、漢口、廣東、哈爾賓

(付属書)

別紙 甲号 王主席ノ陳謝状

乙号 司令官ノ通告

丙号 王主席ノ回答

丁号 司令官ノ声明

戊号 司令官ノ覚書

癸号 王主席ノ公文

別紙甲号

事件発生以来日本軍ニ敵対行動ヲ執リ死傷者ヲ生セシメタルコト及其際日本軍ノ要求ニヨリ直チニ參百米ニ撤退ヲ約

シナカラ之力実行確実ナラス事件ノ拡大ヲ見ルニ至リシハ

王主席ノ頗ル遺憾トスル所ニシテ茲ニ深ク陳謝スルモノナ

リ

一、日本軍ニ対スル侮辱的謠言ニ対シテハ之ヲ嚴ニ取り

ルコトヲ要求ス

一、即時敵対行為ノ中止

二、支那軍隊ノ列國軍駐屯地ヨリ二十支里外ヘノ撤退ノ確実ナル実行

三、武装保安隊ノ南運河及金鋼橋ヨリ塘子ニ通スル運河ノ線以北ヘノ撤退

四、河北省内ニ在ル軍隊（武装ト便衣タルトヲ問ハス）ノ移動中止

五、排日及侮日行為ノ絶対的取締

別紙丙号

本月二十七日照会ノ件回答

河北省 政府

天津駐屯大日本軍司令官香椎閣下

締ルコト

一、日本軍ニ対スル為メ日本租界線ヲ去ル參百米ノ線及日本租界ニ向ヒ新ニ実施セル總テノ軍事施設及行動ヲ撤去スルコト

但シ右ハ日本軍ニ於テ隨時点検スルコト

日本軍ノ新ニ設ケタル防禦施設ハ右ノ実行後成ル可ク速ニ逐次撤去ス

一、日本租界ヲ去ル參百米ノ線以内ニハ保安隊ヲ入レサルコト

但シ拳銃ヲ有スル巡警ハ差支ナシ

一、日本軍ノ防禦線ヲ撤去スル迄トス

昭和六年十一月十五日

別紙乙号  
通 告  
昭和六年十一月二十七日

第二軍長河北省主席 王樹常殿  
支那駐屯軍司令官 香椎浩平

去ル十一月十五日貴軍長ハ支那側ノ敵対行為ニ対シ誠意ヲ以テ陳謝シタリ然ルニ拘ラス又々昨十一月二十六日夜俄然

貴司令官本月二十七日ノ照会ハ既ニ訳出シ茲ニ原文各条ニ對照シテ左ノ如ク回答ス

一、現在我方ハ天津ノ治安ヲ擾乱スル便衣隊ヲ防禦シアルモノニシテ絶対ニ貴方ニ対シ敵対行為ヲ採ルモノニアラサルハ屢次声明セル所ナリ想フニ貴我両方平素敦睦ノ誼ヲ諒解シ以後相互ニ此種ノ類似行為ノ制止ニ努力シ以テ誤会ノ發生ヲ免レンコトヲ希望ス

二、我方ハ一九〇二年ノ天津條約交換公文ノ主旨ヲ尊重スル為メ既ニ從来天津ニ駐屯セル少數ノ軍隊ヲ天津ヲ離ル二十支里以外ニ臨時撤退セリ

以上ハ既ニ貴國ノ天津駐在總領事ニ答復セル所ナリ

三、天津市保安隊ニハ治安保護ノ責アリ現在ニ於テ既ニ便衣隊ノ治安擾乱アリ若シ該保安隊ヲ以テ責意ノ如ク撤退セハ撤退区域内中外人民ノ生命財産ハ勢必スヤ保護ノ法ナカルヘシ

本条ハ實ニ其ノ事實ニ困難ヲ感ス尙貴方ノ諒解アランコトヲ希フ

但シ若シ能ク天津ニ駐屯スル其他ノ友邦當局ト連合シテ別ニ治安保護ノ有効ナル方法ヲ謀リ得ル時ハ本条モ亦商

量弁理スヘシ

別紙戊号

昭和六年十一月二十八日

支那駐屯軍司令官 香 椎 浩 平

第二軍長河北省主席 王 樹 常 殿

四、現在天津ヲ距ル二十支里以内ノ中國軍隊ハ既ニ前述ノ如ク夙ニ撤退シ誠意ヲ表示セリ此距離以外ニ在ル其他ノ軍隊ニ至ツテハ弊政府ノ所轄ニ非ス弁理上実ニ困難ヲ感ス諒解アランコトヲ希フ

五、排日及侮辱ノ行為ハ早クヨリ取締ヲ実行シアルモノニシテ今後モ更ニ注意スヘシ  
以上各条答復ス

別紙丁号

声 明

去ル十一月十五日王樹常カ支那側ノ敵対行為ニ対シ陳謝ノ意ヲ表シ未タ二旬ナラスシテ再ヒ今回ノ如キ衝突事件ヲ惹起セリ我軍ハ屢次声明セル如ク支那側ノ挑戦ナキ限り絶対ニ敵対動作ニ出テサルヘキハ勿論ニシテ本二十七日通告ヲ發セルハ真ニ日支両軍ノ不祥事ヲ防止セントスルニ外ナラス然ルニ支那側ノ回答ハ些ノ誠意ナシ之レニ対スル支那側ノ責任ハ实ニ重大ナルモノト認ム

昭和六年十一月二十七日

支那駐屯軍司令官 香 椎 浩 平

一、敵対行為ヲ採ラサルコト殊ニ射撃禁止ニ関シテハ貴下ノ屢次声明セル所ナルニ實際ハ之ニ反シテ我軍及日本租界ヲ射撃シ我陣地ヲ狙撃スル等全然敵対行為ニシテ我軍ノ忍フ能ハサル所ナリ加之貴軍ハ自ラ自己ノ砲兵ヲ以テ支那街又ハ支那街ニ在ル列国人利権付近ヲ射撃シアルヲ認ム其ノ真意那辺ニアルヤ知ルヲ得サル所ナリ

二、天津駐屯ノ支那軍隊ヲ各国軍隊駐屯地ヲ距ル二十支里

三、治安維持ニ名ヲ藉リ砲兵、重軽機関銃、歩兵砲等ヲ有スル武装保安隊ヲ日本租界付近ニ配置シ之ヲシテ挑戦的態度ニ出テシムルハ日支国交保持上誠意ナキモノト認ム

四、河北省内ニ在ル軍隊ハ貴政府ト如何ナル關係ニアルヤハ別問題ニシテ貴下ハ軍長トシテ其ノ隸下軍ニ対シ命令令權ヲ有スル筈ナリ又隸下外軍隊ニ対シテハ別ニ方法アル筈ナリ

三、治安維持ニ名ヲ藉リ砲兵、重軽機関銃、歩兵砲等ヲ有スル武装保安隊ヲ日本租界付近ニ配置シ之ヲシテ挑戦的態度ニ出テシムルハ日支国交保持上誠意ナキモノト認ム

四、河北省内ニ在ル軍隊ハ貴政府ト如何ナル關係ニアルヤハ別問題ニシテ貴下ハ軍長トシテ其ノ隸下軍ニ対シ命令令權ヲ有スル筈ナリ又隸下外軍隊ニ対シテハ別ニ方法アル筈ナリ

別紙癸号

逕啓者查貴我兩方向來親善本月二十六日便衣隊暴動以來我方保安隊之行動專在剿除擾亂津市治安之便衣隊並無敵對貴方警戒兵之意不料剿捕便衣隊交鋒射擊之際有誤向貴軍警戒線射擊以致貴軍士兵負傷本主席聞之抱歉茲鑿於今次誤解急於根本消滅除飭令保安隊暫退河北外並令所属軍隊不在天津及天津附近施行集合大軍以免誤會之再生此外對於反日侮日的言行之嚴加取締問題除前函業經聲明外特再声明深願今后

225 昭和7年1月6日 在天津桑島總領事より

犬養外務大臣宛(電報)

部外極秘電報の軍への漏洩に關し注意喚起について

天津 1月6日後発  
本省 1月6日後着

第六号(極秘)

部外極秘電報ニシテ相當際疾キモノカ軍部等ニ漏レ誤解ヲ招キ居ルヤニ認メラル節アリ御如才無キ事乍ラ今後モ御注意乞フ

226 昭和7年1月8日 在北平矢野參事官より

犬養外務大臣宛(電報)

天津駐屯軍の第三次事件計画に関する風説について

北平 1月8日後発  
本省 1月8日後着

第一二号(暗、部外絶対極秘)

天津駐屯軍ニ於テハ今般約二百名ノ兵卒ニ支那服ヲ着用セシメ別働隊ヲ組織シ本月十五日前後第三次天津事件惹起ノ計画アリトノ風説極メテ無責任ナル方面ヨリ聞込アリ

## 亞細亞局第一課

## 第二次天津事変

- 一、一般経過  
二、我軍司令官ノ採レル措置  
三、領事団  
四、各国態度  
五、居留民  
六、新聞報

## 第二次天津事変

十一月八日事變十五日支那側ト協定成リ事態モ漸次鎮静

ニ赴キタルヲ以テ二十六日ニハ在留邦人ニテ組織セル義勇軍ヲ解散セルカ二十六日午後八時半頃海光寺兵營西南方ニ便衣隊現レタルカ支那側ハ我方ニ対シテ援助ヲ求メサルノミナラス通告スラモ為サスシテ之ヲ掃蕩スルト称シテ我方租界境界ヲ射撃シ次テ事態ハ三不管東南城廓方面ニモ拡大スルニ至リタリ、支那側ハ小銃ノミナラス迫撃砲機関銃ヲモ使用シ危険極リナケレハ我方モ已ムナク十時頃ヨリ之ニ対シテ応射セリ我方ハ直ニ張學銘ニ対シ支那側ノ発砲停止方ヲ要求セルモ其ノ効ナク砲声裡ニ二十六日ヲ過キタルカ二十七日我軍司令官ハ事態悪化ヲ顧慮シ戒厳令ヲ布ケリ前夜來ノ日支双方ノ射撃ニ依リ支那街ニアル「メソジスト」教会(米国人經營)及発電所(白国人經營)ニ砲弾落下セリトノ米白各領事ノ申出ニ接シタルモ事情已ヲ得サルニ依リ生シタル事故ナルト被害ソノモノカ余リ大ナラサリシヲ以テ将来注意スヘキコトヲ通告シテ事件落着セリ

支那側ニ対シテハ尚モ射撃絶対禁止ヲ要求シタル結果一時小康ヲ得タルモ二十七日午後八時半頃ヨリ二十八日午前七時半頃ニ亘リ射撃猛烈トナレリ當時既ニ張學良ヨリ実行(三)武装保安隊ノ南運河及金鋼橋ヨリ墻兒ニ通スル運河ノ線以北ヘノ撤退(四)河北省ニアル軍隊ノ移動中止(五)排日行為ノ絶対取締ヲ要求セリ

右ニ対シ王樹常ハ同日午後四時(一)支那側ハ便衣隊ヲ防禦

右ハ素ヨリ取ルニ足ラサル流説ニ過キサルモ前記ノ如キ風説ノ伝播ハ捨て置キ難キニ付其出所嚴探中不取敢

227 昭和7年1月9日 亞細亞局第一課作成調書

天津事変(第二次)  
天津事変(第二次)天津 1月9日  
亞細亞局第一課

第六号(極秘)

部外極秘電報ニシテ相当際疾キモノカ軍部等ニ漏レ誤解ヲ招キ居ルヤニ認メラル節アリ御如才無キ事乍ラ今後モ御注意乞フ

スルモノニシテ日本側ニ敵対行為ヲナスモノニアラサル  
カ将来トモ衝突ノ恐レナキ様充分注意スヘキコト(二)支那  
軍隊ノ各国軍隊駐屯地ヨリ二十支里以外ヘノ撤退ハ既ニ  
実行セリ(三)現ニ便衣隊カ治安ヲ擾乱シ居レル際ナレハ保  
安隊ノ南運河以北ヘノ撤退ハ不可能ナルモ各國駐屯軍ニ  
於テ連合治安保護ノ有効ナル方法ヲ講シ得ルニ於テハ其  
ノ共同処理ニ一任スヘシ(四)天津ヲ去ル二十支里以外ノ軍  
隊ノ移動ハ省政府ノ所轄ニ非ルヲ以テ弁理困難ナリ(五)排  
日及侮辱的行為ノ防止ハ已ニ実行シ居ルモ今後一層注意  
スヘシト回答アリタリ

依テ我軍司令官ハ更ニ二十八日付ヲ以テ(一)依然敵対行為  
ヲ中止セサルコト(二)正規軍ヲ完全ニ撤退セサルノミナラ  
ス新ニ鉄甲車ヲ東停車場ニ招致シ(三)大砲機関銃等ヲ有ス  
ル保安隊ヲ租界付近ニ配置シ(四)河北省内ノ軍隊移動ヲ禁  
止セス其ノ他ノ軍隊ニ付テモ適當ノ方法ヲトラサルハ將  
來起リ得ヘキ日支間ノ不祥事ノ責任ハ全ク支那側ニアリ  
トセサル可ラスト申置キタリ

然ルニ二十八日夜周龍光ハ我領事館ヲ訪問シ保安隊撤退  
ニ關スル王樹常ノ意向ヲ齎シタルモ其ノ撤退ノ程度極メ

テ小範囲ニ限ラルルコト判明シタルニ付支那側ノ再考ヲ  
求メタル処翌二十九日二十六日事件発生以前ノ状態ニ復  
旧シタキ案ヲ具シタルヲ以テ我方トシテハ支那側ニ於テ  
事態拡大ヲ防止スルノ決意ヲ有スル以上我方要求ヲ容ル  
ルコトノ至当ナル所以ヲ説キ軍參謀長ト会見セシメ(一)撤  
退地域ニハ巡警ノ外手榴弾及拳銃ヲ有スル保安隊員ニ限  
リ四百八十名駐屯スルモ差支ヘナシ右区域内ニ在ル上水  
道水源池及發電所保護ノ為武装保安隊ノ駐屯ヲ許ス(二)同  
区域ニ便衣隊多數出現シ治安ヲ乱ス場合ハ日本軍部ノ了  
解ヲ經テ河北ヨリ武装保安隊ヲ増援スルコトヲ得(三)日本  
租界ニ對スル防備工事ハ總テ撤去スノ諸条項ヲ以テ事件  
ヲ解決スルコトシテ交渉ヲ進メ十二月六日王樹常ハ便  
衣隊掃蕩ニ際シ我軍警戒線ニ向ヒ射擊シ我軍兵士ヲ負傷  
セシメタルコトニ關シ遺憾ノ意ヲ表シ我方ヨリハ今後約  
束不履行ニ依リ不祥事件再発スル場合ノ責任ハ一切支那  
ニアル旨文書ヲ以テ申シ置キタリ

### 三、領事団

二十八日領事団會議開催セラレタルヲ以テ我總領事ハ館  
員ヲ派遣シ八日暴動以來我方ノ探レル態度ヲ説明シ右ハ

全ク自衛措置ニ過キサリシ所以ヲ明カニシ二十六日以来  
支那側カ依然不法射撃ヲ続ケ居ル次第ヲ説明セシメタル  
處一同之ヲ諒トセリ、次テ事態拾収ニ關シ種々論議アリ

タルカ支那側ニ於テ自發的ニ日支境界線ヨリ保安隊ヲ撤  
退セシメ其ノ完了ヲ待ツテ外國武官ニ之ヲ検査アリ度キ  
旨王樹常ヨリ申出アリタルヲ以テ領事団ハ満足ノ意ヲ表  
シ委細ハ我軍司令官ト王樹常トノ間ニ打合スコトニ決シ  
テ散会セリ

### 五、居留民

第二次事件勃発スルヤ支那街ニ近接セル租界内ノ婦女子  
ハ租界内仏租界寄リ又ハ英仏租界ノ知己ニ避難セシムル  
ノ外危險区域居住民ハ學校寺院等ニ避難セシメ又二十八  
日大連ヨリ満鉄小型船二隻ヲ回航セシメ事態ニ備ヘタル  
カ本邦及大連方面ニ引揚ケタルモノ四十七名(十一月二  
十九日迄)ニ過キサリキ然レトモ前後二回ノ暴動ノ為人  
心ノ動搖甚シク邦人ニシテ本邦大連方面ニ引揚クルモノ  
アル外日本租界ヨリ他租界ニ移住スルモノ相次キ空家ヲ  
生シ商況振ハス非常ナル租界衰退ヲ來セリ因ニ事件以来  
本邦大連等ニ避難セルモノ九百二十名(十二月五日)ナ  
リ

### 四、各国態度

十一月二十八日英軍司令官ハ香椎中将ヲ來訪シ非公式ナ  
ル趣ヲ以テ日支衝突ヲ避ケル為日本租界外ニ緩衝地帯ヲ  
作り日英米仏伊軍隊ニテ連合警察ヲ組織シ右地帯ヲ警備  
セシムルノ案ヲ提議セルカ右ハ案其ノ物カ実行困難ナル  
ノミナラス其ノ後事態ハ鎮静ニ帰シタルヲ以テ其ノ儘ト  
ナレリ

右英軍司令官ノ提議ハ南京ニ於ケル英米仏三国公使ノ会  
合ニ於テ天津ノ事態ハ其ノ儘放置シ得サルニ付其善後措  
置ニ關シ夫々總領事ニ訓令セル結果ニシテ英國總領事ノ  
發意ニ依リ軍司令官間ノ交渉ヲ以テ右目的ヲ達セントシ  
リ

### 六、新聞報

支那紙ハ本第二次天津事變モ我方ノ策謀ニ依ルモノナリ  
トノ惡宣傳ヲナシ便衣隊ノ本部ハ我カ租界内ニ在リテ我  
軍兵ノ歩哨ヲ立シメ居ル等荒唐無稽ナル記事ヲ掲ケ居ル  
カ重ナル新聞報左ノ如シ

